

# The Kansai University Bulletin

Osaka, January 1st, 1925—No. 25

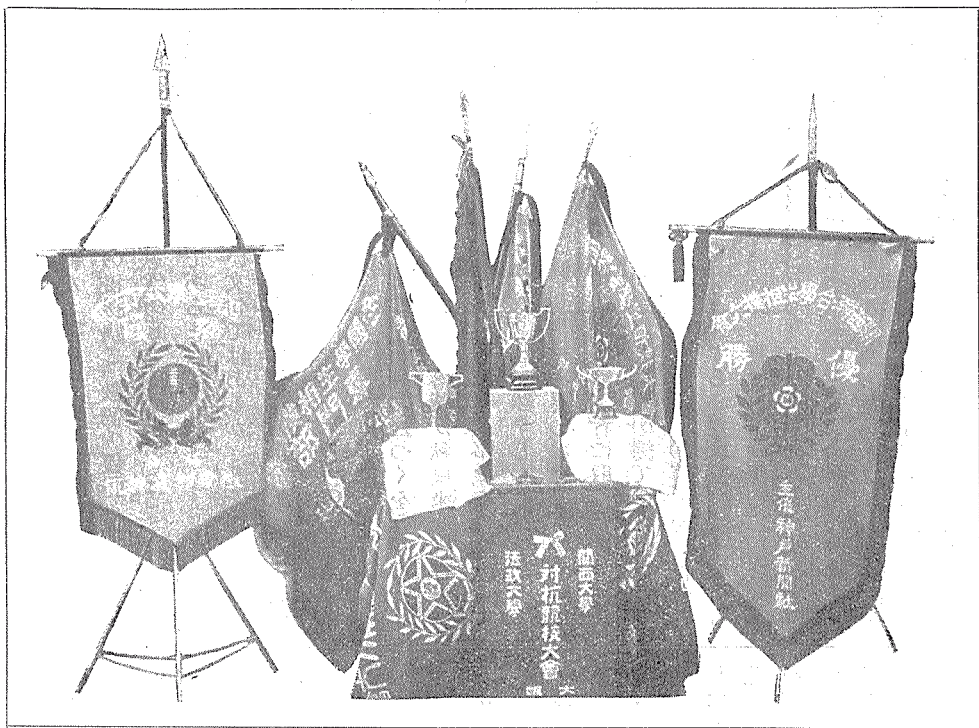
## 報學山里子

行發日一月一

號年新

年四十正大

Champion Flags and Trophies obtained by the University Students in Athletics



杯勝優び及旗勝優るたれらせ得獲てつ依に生學學本

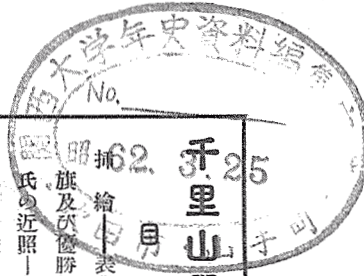
阪大

堀佐土話電  
番〇七五五・九四〇一

局報學學大西關

座口金貯替振  
番五七八二一阪大

1 9 2 5



千里山學報 第二十五號

次

年頭所感

卷頭言

繪一表學學生に依りて獲得せられたる優勝旗及び優勝杯(表紙)故パレト教授野口十藏氏の近照永田宗太郎氏の近照優勝せる相撲部及び陸上部選手並に委員と大演に於ける本學應援團一境成せる本學相撲道場優勝せる本學野球部選手並に委員千里山柔道部選手並に委員大毎樓上に於ける語學大會の光景と同記念撮影關西甲種商業學校辯論部員最近のマタ

年頭所感

卷頭言

故パレト教授の令嬢に逢ふ

關西大學教授 岩崎 卯一

神の信仰とその種種相

關西大學教授 櫻井 匡

支那人雜觀

校友 藤田 少介

學内報一相撲部優勝祝賀式一野球部優勝祝賀式一ア式蹴球部優勝祝賀式一野口十藏氏の植樹寄贈一宮島事務理事の本學内容説明一學部第二學期授業終了一大學豫科第二學期授業終了一第二學期試驗施行一專門部第二學期授業終了一專門部豫科第二學期授業終了一同第二學期試驗施行一同第二學期授業終了一同第二學期試驗施行一同第二學期終了式舉行一深野贊助員の歐米視察一田所評議員文政審議會委員被仰付一佐々・松崎兩講師の轉居一相撲道場の新設一ガウエン博士と千里山學報一

一計報

校友の面影一永田宗太郎氏

校友彙報一學生彙報

關西甲種商業學校彙報一雜錄一新刊紹介

本誌本號を手にした人の眼には、一様に、何よりも先づ、その表紙に挿入された多くの優勝旗と優勝カップの寫眞が映るであらう。これ等の何れもは、そこに加へられた簡単な説明文句が示してゐるやうに、最近に、本學學生の各部に依つて獲得されたものである。

To all our friends abroad we extend our very best wishes for a Merry Christmas and a Happy New Year.

Editors, The Kansai University Bulletin.

と共に、先づ何よりも、本學の近い過去を顧み、かくすることに依つて、その將來の展び方に思を寄せることは、極めて當然のことであると思ふ。更にこの意味に於て、本學の近い過去を彩る、學生各部の活動の成果を象徴する數旗の優勝旗と、數個の優勝カップに、何等かの思索のヒントを求めるときは、決して無意義であるまいと思ふ。

如何なる部分も、心ある者には必ず何らかの意義を齎すものである。一鳥の轉りが春の近づくを報じ、一片の落葉が秋風來を告げるやうに、或事象を豫測するに、必ずしも全體を把握するを要しない。本學の學運を憶ふ者に取つては、必ずしもその總ての方面に互つて、個個の事象を解剖吟味する必要はない。一つの事實は總てを語るに充分である。吾人がここに提供する

人のみから成る本誌の讀者の何れもが、必ず容易に理解せられるであらうことも、亦信じて疑はぬものである。新年は、何人にも、その過去に經て來た道程を顧みつつ、個人の、若くはその個人が關係を有する團體なり社會なりの、將來の行き方を考へさせる唯一の機會であることは言ふまでもない。この意味に於て、吾人が讀者諸氏

材料は、先づ第一に、本學の學生が發揮しつつある全面的活動力を表してゐる。相撲部が優勝旗を獲得し、野球部も、蹴球部も、相次いでこれを獲得し、陸上競技部も亦これに前後して、聲價を天下に博うしてゐる。更に運動競技の方面に於けるこの全面的發展は、同時に他の方面に於ける學生の狀態を憶はしむるに充分である。即ち學生生活の他の一面である學問研究の方面も、亦言ふまでもなく、か

くの如き機運の埒外に立つことは考へられぬ。勿論、學問研究の方面に於ける學生の發展狀態は、運動競技の方面に於ける如く、直ちに具體的の成果を表し得るものではない。然しながら、この場合、吾人が一に漲る機運の如何を見て、他が浸る雰圍氣を察知することは、強ち冒險事とは言ひ得まい。何故なれば、大學はそれ自身一個の有機體であつて、全體としての生命力を缺く時、決して或一機能のみ充分に發揮され得るものにあらず、若しかくの如きことありすれば、それは一種の病的現象であると言はなければならぬ。然るに、我關西大學と有有機體の一機能、謂はば手足に相當する前記學生運動部の發展振りは、これを病的現象と稱すべく、餘りに組織的であり、餘りに全面的である。況んや、近代のスポーツの特徴は、その成功が、單なる物理的力の發揮のみに依つては、到底望み得るものにあらず、過分の理智的要素、科學的檢索を必要とする點にある。かくの如き事實が、一般に承認され得るものである以上、運動競技に表れたる本學學生の進展は、その基柢に、他の凡ゆる方面に於ける充實と發展の存することを、推知せしめるに充分であり、同じ論理に依つて、これ等本學學生の狀態が、更に全體としての本學の現狀を、明白に表示するものと言はなければならぬ。我關西大學は、今や全面的に、文字通り、旭日昇天の勢を示してゐる。吾人は、今大正十四年元旦の嘉辰に當り、多望なる本學の將來を、經來つた過去の道程を顧みることに依つて、讀者諸氏と共に、確實にトし得ることを、この上なき喜びみなすものである。

## 外遊記

パンタレオニ教授邸で

### 故パレト教授の令嬢に逢ふ

(パンタレオニ教授訪問記の三)

關西大學教授 岩崎卯一

#### 目次

- 一、パレト教授の令嬢に逢ふ
- 二、パレト教授の風采と、教授の著名な「猫好」
- 三、パレト教授の略傳とその學業業績について
- 四、數理經濟學におけるパレト教授の地位について
- 五、純理社會學におけるパレト教授の苦悶について
- 六、パレト教授の“Traité de Sociologie générale”についで



故パレト教授

「この小稿を発表する機を利用し、故パレト教授の英靈安かれと祈り、同時に遣はれたる令嬢の幸福の上に、天帝の加護更に多かれと祈り奉る。(ういち)――

『これが、昨年の夏の終りに死んだパレト教

授 (Vilfredo Pareto) の忘れ形見ですよ。

ほんきに、こんな可愛い奇麗な娘をあこに殘しては、パレト教授も、さぞ、死に度くはなかつたでせう。これは、早くから、母親に離れた不幸な子供です。そして今又、これまで眼に入つても痛くないほど、愛してくれた父親に死別したのです。わたくしは、この娘のこころを思ふに、ほんきに可愛相でしかたがありません。』

痛痛しさうにかう言つて、眼をなにか光るもので潤ませられたパンタレオニ老教授は、奥からしやかに、香りのたかい紅茶を運んできた十六七の少女を、さも可愛うてたまらぬいふ格好で、やさしく自分の手元に引きよせ、恰度色づきはじめて林檎のやうな美しい色をした少女の肥へた頬に、熱愛的接吻をされました。

パンタレオニ教授がいはれたまはり、本當に可愛ういそして美しい令嬢でございました。わたくしは、これまで瑞西に遊ぶことが二回でございます。瑞西は山と湖と森との美に、あまりに多く恵まれてゐるためか、不思議にも、却つて美しい人に恵まれず、『瑞西に美人なし』というやうな酷評を聞くことが、たびたびでございました。ところが、今、眼の前に、ラファエルが描いた美しくて神しいマドンナのやうなパレト教授の孤兒を見た瞬間に、その酷評が非常に誤つてゐることを發見いたしました。聰明さ、無邪氣さを巧に象徴した鳩のやうな眼、柔かい曲線のやさしい動作により作られる姿態、しかも、其の中に、親に離れた孤兒の悲しい運命につき纏ふ一脈の哀愁が、どこまでも、覗はれて、この少女

を、さらに可憐のものにいたしました。この少女は瑞西の○ザンヌ育ちだといふことを聞いて、わたくしは、三年前の春の暮れに、今年の秋の初めに二回、遊んだレマン湖畔の夢のやうな水境を想ひだしました。

瑞西○ザンヌ!!なんといふ美しい人の都でございますませう。佛伊國境の雲邊にそびゆるサウ・イ・アルプスの諸高峰が、永遠にきけない雪をいただいた崇嚴なその冠りを、水の底まで鏡のやうに澄みきつたレマン湖上に、永遠に撮してゐます。このアルプス連山の麓の雪を溶かした清澄な水が、レマン湖に、なみなみと満ち溢れてゐます。このレマン湖畔中でも一番見晴らしのよい小高い岡の上に美しい町が、千年にちかい星霜を闊みした大寺院の崇嚴な建築を中心として、こんもりと建設されてゐます。これが、瑞西○ザンヌの町です。すなはち、この可憐な孤兒の父であるパレト教授が、四十三歳から晩年まで約三十有餘年間、靜かなしき寂しい日を送られた○ザンヌの町です。この大學で、パレト教授は學者生活の全部をおくられたのであります。

『お嬢さん。お寂しくはございませんか。あなたのお父様は、ほんにこにお慕ひ方でした。ほんきに、あなたを可愛うく思はれたでせうに……』

パレト教授の令嬢は、英語を了解されませんので、わたくしはフランス語でかう靜にいつて慰めました。わたくしに、聲をかけられた令嬢は、さつき顔をあからめ、パンタレオニ教授の瘠せてながい兩膝のうへに、腰を下ろし、教授に抱かれたまま、耻しさうに、その美しい唇を開かれました。

『でも、こちらの人達が、みな親切にしてくださいますので、ちつとも寂しいことはございませんのよ。亡くなつた父の生前にも、ここには、なん度も来たことがございますから。まだ、はつきり定めてはゐませんが、れども、妾は、この美術學校に通つて、畫工にならうと思ひますの。○ザンヌでも、すこしばかり繪を勉強してききましたが、あちらと違つてこの○マには、立派な繪や、豪い先生方が、澤山ございますので、○マに來たことはしてこの叔父さんに愛して貰ふことは、本當に幸福だと思ひますの。』

わたくしも、この可憐な少女のよきみのない佛蘭西語の澄んだ發音に聴きいるとき、引きよせられるやうな可愛さを覺えました。それにしても、こんな可愛うい一人娘を残して逝かれた、パレト老教授の心残りはいくらであつたでございませう。晩年に到つて、教授の精力の殆んご全部をすいつくしたとも見らるる大著“Traité de Sociologie Générale”の中に、植へつけられた社會學原理の健全な成長よりも、教授は、この孤兒の成長について、より一層懸念されたに違ひない。親はなくとも子は育つ。それにしても、この少女の母親は?

『お嬢さん。あなたのお母さんは早く逝くなられましたのですか。あなたは、いつごろからお父さんのお手一つで、お育ちになりましたの。』

あさで考へますれば、この私の質問はほんきに不注意なそして慘酷な質問でございました。わたくしは事情を聴かされたのち、

この言葉を發せしめた自分の舌を思ひきつて  
噛み切つて仕舞いたいやうに思ひました。こ  
のわたくしの間によつて、バレト令嬢の無邪  
氣な顔は、夕立に見舞はれた空のやうに、さ  
つと、曇りました。

『さうぞその質問はおつづけて下さいませ  
な。それではこの娘が可愛相ですから。こ  
の娘は、ほんさうに父親一人の娘です。が、  
考へてみますれば、學問上には功成り名遂  
げた親友バレト教授も、家庭的には悲劇の  
主人公でした。いま、おたづねになつたこ  
の娘の母親は未だ生きてゐます。多分、いま  
ごろは巴里あたりで生活してゐるでせう。

時はこの娘に逢ひに来るやうです。』

わたくしは、これだけやつと洩らされたパン  
タレオニ教授の言葉の意に潜んでゐるある恐  
ろしい悲しい意味を即座に推測して、暗然た  
る氣持ちに襲はれ、口を緘しました。約二十  
日ばかり前、トリノ市で逢つたコセンチニ教  
授夫妻が、老いのいたるのも忘れたやうな仲  
の睦まじいを見て、たゞひ、コセンチニ教  
授の學者としての社會的地位には、逆境もあ  
り、又、堪えられぬ程の迫害があつても、教  
授の愛の巢である家庭の暖かさは、これを償  
ふて充分であるさ心強く感じたことがござい  
ました。そのコセンチニ教授夫人も瑞西生れ  
で、バレト教授に教をうけた。コセンチニ大  
學出身の方ださきました。これに反し、バレト  
教授は、早くから、コザンヌ大學の經濟學正  
教授として、物質的に富める學者として、イ  
タリー經濟學界の最高權威として、さらにま  
た、榮譽ある伊太利上院勅選議員として世に  
さきめき、社會的には、世人羨望の中心とな

つてゐられるにもかかはらず、人生において  
何よりも大切な教授の愛の巢には、目にみえ  
ぬ大きな空洞があつたのであります。傳へ聞  
きますところによれば、バレト教授夫人は、  
露西亞生れの美人であつたさうですが、バレ  
ト教授の學究生活に飽きたらず、遂に破鏡の  
嘆きを結果したこのことでございます。内面  
の御事情がこんなであつたかは、無論わたく  
し達が知るべきことではありませんが、兎も  
角も、こんな可愛ゆい娘を残して、夫の家を  
去るさういふことは、よくよくのことは言へ、  
私はさうしてもこの人に好意を持てませんで  
した。

## 二

わたくしは、暗い心持ちに引きいれられるや  
うなこの種の話題を轉じ、なにかこの少女を  
無邪氣に喜ばせるやうな面白い題材はないか  
知らんさ考へてゐました時、突然、バレト教  
授の『猫好きの話』が、頭に浮びました。わた  
くしも、決して人後に落ちないほどの動物好  
きの一人であります。如是閑氏ではないが、  
犬・猫・鳥・みな無條件で好きであります。こん  
ごの海外旅行中は、六甲山麓の吾が家に、残  
して來た愛犬のこゝだけは、絶えず念頭を去  
らなかつたほどの、動物好きであります。

『あなたのお父さんの猫好きのななしは、  
學者の間にそれはそれは有名でございます  
よ。さうして、そんなに猫がお好きだつた  
のですか。』

このわたくしの質問は、また馬鹿けたことだ  
さ、直ぐ氣がつきました。わたくし自身にし  
て見ましても、わたくしの動物好きは、ほと  
んど理窟なしの無條件であることを知りぬい

てゐる癖に、こんな『さうして』と言ふやうな  
質問を發してさ、自分ながら、自分の愚かさ  
を笑ひました。それでも、心のすなほ美し  
い少女は、晴ればれしい微笑と共に、この馬  
鹿けた質問を、こころよく受け入れてくれま  
した。

『父は、ご承知の通りの勉強一方の人で、ほ  
さんご一日の大部分を、しづかな書齋でく  
らしました。犬もさう嫌ひさういふ方ではあ  
りませんでしたが、犬の性質は無邪氣なか  
はりに、舉止が粗暴でございますから、外  
出の時の道連れとしては結構ですが、書齋  
の遊び相手としては不適當ださ言つてゐま  
した。元來父は、靜かなことが好きでござ  
いますから、猫は動作の時、音を立てない  
から、勉強の妨害にならなくてよいさ言つ  
て、非常に猫を大事にして可愛がりました。  
また、猫の方でも、父の氣持を呑みこんで  
ゐるさ見へ、暖い日なごは、父の書齋の窓  
ぎわに半日ぐらゐるじつさだまりこんで、父  
の勉強を監視しました。また、寒い冬の日  
なごは、書齋のマントル・ピースの上に靜  
かにうづくまつて、一日父を慰めてくれま  
した。それから、父はよく、猫の毛は天鷲  
絨のやうに柔かで肌觸りがよいさいつて、  
愛好いたしました。一家の者さ話すべきな  
ごも、父は、絶えずさの猫かを抱いてゐま  
した。

『實際、わたくしの父は猫さういへば全く眼が  
ありませんでした。宅にはあらゆる種類の  
猫をあつめてゐましたが、死ぬ二三年前に  
は、約三百フラン(邦貨約百貳拾圓)さいふ  
高い價を投じて、スコットランドから、わ

ざわざ、一匹の猫を取り寄せたこともござ  
いました。ですから、父にかぶれたわけで  
はありませんが、妾は猫が大好きです。』  
再び快活になつた少女の唇を洩れてくる鶯の  
聲のやうなフランス語に黙すして聴き入る  
時、眞理探求の思索のため、四邊の靜寂を愛  
好するバレト教授の學者らしい風采が明らか  
に想像されました。これと同時に、年若き最  
愛の妻に背かれ、寂しき孤園を守る氣の毒な  
老教授の心境をも追想いたしました。

令嬢のこの話しを、始終にこにこしながら聴  
いてゐられたパンタレオニ教授に、わたくし  
は、英語で、『教授も猫がお好きですか』さ  
つねてみました。さうな問題にも一理窟こね  
てみなければ氣の濟まないさ言つたやうな顔  
をしてゐられたパンタレオニ教授は、この小  
さい質問に對しても、例の如く、論理整然と、  
堂堂の議論を吐きはじめ、私を驚ろかされま  
した。

『猫さういふ動物は、さくに私は大嫌いです。  
が、こゝにもゐないことはありません。第  
一、性質が陰險で、婦人向きであります。  
第二に、恐ろしく獐狘な爪を持つてゐます。  
犬は、ほさんご自分の主人や、主人の家族  
を噛むさいふやうなことはありませんが、  
猫の奴は、機嫌が悪いさには、だれでも  
相手かまはず引つかきます。第三に、猫の  
毛は非常に細くて、なかには、肉眼ではほ  
さんご見へないくらゐ細いのがあります。  
その細い猫の毛が、いつの間にか眼に入つ  
て、人間の網膜を傷害します。猫好きの人  
達が、はつきりしない原因のために、よく  
眼を患ふのは、主として猫の毛が眼に侵入

するからです。パレト教授も、その晩年には、かなり眼を悪くされたやうですが、あるひは、この猫の毛が眼に這入つたためかもしれません。』

そのうちに、美しいパレト令嬢は奥に行つて、数枚の小形寫眞を手にして再び出て來られました、拜見しましたら皆同じ寫眞ばかりでした。その寫眞は、手札形で、それに臺紙なものも貼つてありませんでした。

パレト教授のお寫眞!! わたくしは、これまで、名ある學者の數多き寫眞をみました。また旅行の途上相當に自分では學者を撮しました。しかし、今、此處で令嬢から『父の寫眞よ』といつて渡されたパレト教授の寫眞くらゐ、深い強い感銘を私にあたへたものはいふまでもないでした。令嬢が語られるところによるミ、この寫眞は、教授の永眠前十九日目に、レマン湖畔にある教授邸の庭園で、令嬢が自ら、自分の寫眞器で父を撮されたものださうです。パンタレオニ教授が語られるところによるミ、元來パレト教授は、有名な寫眞嫌ひだつたさうです。人の寫眞を見ることも好まず、自分の姿を寫眞に撮されることはなほさら好まれなかつたさうです。ミころが、最愛の令嬢が、たつての希望をしりぞけかねて、ある天氣のよい晩夏の午後、教授の氣分のよい時を擇んで、令嬢の前に立ち、令嬢がその可愛い手で撮されたのがこの寫眞ださうです。悲しいこゝには、其れが、教授の最後の紀念になりました。

ただ見るその寫眞の中央に、瘡せ衰へた影のやうな長い身體を、黒地の洋服につつま、軟かさうな毛糸の首巻をなし、片手はぶらりミ

腰のあたりに垂れ、片手で力なく烏打帽をつかんだ一老人が立つてゐます。頭は、大部分額から剥けあがり、残りの毛は、また、大部分白髪に化してゐます。烏の巢のやうにもつれて長く垂れ下つた白い髭、泣いたあこのやうな憂ひを帯びた眼差し、額上の深酷な太い皺、なんこいふ衰への見へた病軀であらう。特に、わたくしが、さうしても忘れ得ませんのは、その憂鬱な眼でございしました。若いころの教授の眼はこんなでなかつたに違ひない。こんな憂鬱な眼を持つやうになるまで、教授のかくれた内面生活には、それだけの苦悶煩悶があつたことであらう。華やかな學術の世界において、パレト教授が建設された數理經濟學の原理は、これまで微動もありませんでしたが、家庭内に於て、教授が築きあげようとした力された愛の殿堂は、しばしば崩壊したのでございします。學術界に於ては、巨人の如き教授は勇敢に戦ふことも出來ます。が、つみ上げた愛の巢の無慚な崩壊に對しては、流石の教授も、只黙し、只苦しみ、その苦悶懊惱にたいする慰藉を、只一人の令嬢ミ、それから、猫ミに求められたものではございしますまいか。

パレト令嬢は、その貴重な寫眞の一葉を、喜んでわたくしにあたへられました。私は、これだけでも、イタリーに來た甲斐があつたと思ひました。

### 三

ここに、昨秋、すなはち、一九二三年八月十九日、瑞西レマン湖畔 Celigny のアンゴラ別邸において、その公生涯にも私生活にも、波瀾の多かつた七十五年さいふ長い地上の戦を了へられた老教授パレト先生の略傳を、簡單

に御紹介したいと思ひます。

パレト家は、イタリー・ジェノヴァ (Genova) の名門であります。其の家は、代代、傑出した人士を社會に出だしてゐましたが、パレト教授の父の代になつてから家運に一頓挫を來たしました。さ言ふのは、彼の父が、革命家の Mazzini の政治運動に加擔して、時の王から追放され、巴里に移住し、技師として身を立てねばならぬやうになつたからでした。そして、彼の両親が、巴里に流離してゐる中に、生を享けたのが、後に世界の最も偉大な社會學者兼經濟學者となつた Vilfredo Pareto でありました。時は、一八四八年七月十五日、すなはち歐洲全體に、社會革命の機運が旺盛してゐたころでございします。

パレト教授は、その幼年時を巴里で送られましたが、やがて、父も赦免され歸國を許されましたので、両親と共に、故國に歸り、トリノ市に住まれました。長じて、トリノ高等工業學校から工科大學に入り、そこを首位で卒業されました。後に經濟學者社會學者なられたパレト教授の卒業論文は『團體の弾力性理論に關する基本的原理及び其の平均を決定する微分方程式の積分に關する研究』(Principii fondamentali della teoria della elasticità dei corpi solidi e ricerche sulla integrazione delle equazioni differenziali che ne definiscono l'equilibrio) といふむづかしい、そして長がたらしい題目でありました。トリノ大學を卒業した後、ある會社の鐵道技師となり、これを社會生活への振り出しとして、漸次、イタリー實業界に地歩をしめ、後には、相等名ある銀行に關係されるやうになりました。こ

の點は、英國において傳統經濟學の理論的基礎を確立した——リカルド (Ricardo) の生涯によく似てゐます。また、工科大學を卒業し、機械技師として生涯をはじめられた點は、ある意味で、パレト教授の數理經濟學の先驅をなしたワルラス教授 (Walras) に不思議にも似てゐます。實に『Cours d'économie politique』に現はれるパレト教授の經濟學的智識は、恰度リカルドが株式仲買人を営みながら On the Principles of Political Economy and Taxation (1817) といふ大著の基礎智識を培養したやうに、銀行ミか鐵道ミかいふ事業に實際従事してゐるうちに、獲得したものであります。

一八九一年、その四十三歳の折、パレト教授は技師の職を捨て、實業界から足を洗ひ、専ら經濟問題や社會問題の研究に没頭されはじめました。瑞西・ザンヌ大學の經濟學正教授であつた Walras 教授が引退されたあゝをうけて、同大學の經濟學正教授なられたのは其の頃です、それから引つづいて三十年同大學に勤続された。晩年に到つて、イタリー上院議員に勅選されました。

パレト教授の名をして、Cournot や、Walras や、Jevons 等々ともに、經濟學史上に不朽ならしめた名著は、ここに改めて申すまでもなく、總ての經濟學者から推賞されてゐる、彼の純理經濟學の處女作 Cours d'économie politique, Tome I. 1896, Tome II. 1897. であります。この次ぎに、かれの數多い經濟學上の諸著述中、見のがすことの出來ない本は、前の『Cours』に提唱された數理經濟學的諸原理を更に訂正發展せしめた『Manuale

d'economia politica" 1806 (同書の佛譯本は "Manuel d'economie politique," 1909) であります。同教授の代表的社會學の文獻は、一九一四年に "Trattato di sociologia generale" と題して出版し、一九一七年に "Traité de Sociologie générale" と題し佛譯された、上下二巻、千七百頁餘の大冊子であります。

パレト教授は、元來多產的著述家ともいふべき方で、社會事象に關する總ての問題に對し論議され、その執筆になる雜誌論文の數は、無慮百數十篇にも上るさうであります。同氏の主要著述をここに拔萃しますれば、前記三冊の外に、なほ左の如きものがあります。

1. "Introduction à le capital de Marx," 1893.
2. "La courbe des revenus," 1896.
3. "Les systèmes Socialistes," 1903.
4. Le mythe vertueuse et la littérature immorale," 1911.
5. "Fatti e teorie," 1920.
6. "Trasformazione della democrazia," 1921.

その他、Léon Say et chailley-Bert の經濟學辭典や、佛國百科全書にも、貴重な論文を執筆してゐられます。その晩年には、新聞紙にも執筆し、盛んに保守主義を提唱されたさうです。同教授が未だ生きてゐられる時、わざわざロザンヌ大學まで出かけて、直接パレト教授の講義を聴かれた畏友大塚金之助君のお話によると、『パレト教授は、非常に頑固な人で、新しい社會運動には何等の理解も同情も有しない反動思想家であつた』さうでございます。この點は保守的傾向については

前に申した通り親友パンタレオニ教授とよく似てゐます。世界大戰後は、怪傑ムッソリニと肝膽相照らし、ファシス主義を信奉する團員の一人でありました。

#### 四

『パレト教授と私は、莫逆の友達でした。かれの死後、かれの遺言によつて、この娘は私の手許に引取つて、養育してゐるのです。』

改めて、煙草に火をつけながら、パンタレオニ老教授は、パレト令嬢が、私に會釋しながら奥に去るのを見送つて、わたくしに、かう言はれました。

孤兒!! 何さいふ悲しい人の子の運命でございます。年若ふして兩親に死別し、早くも人の世の涙を知つた私は、今、異郷の空の下で、パレト教授遺愛の一少女に逢ひ、その可憐な風姿をまのあたり見、人一倍に憐愍の情を催ふしました。

パンタレオニ教授は、今度は話題を、親友パレト教授の經濟學その他における學術的業績に及ぼされました。前にトリノ市で、ロリア教授 (Prof. Loria) にお眼にかかつたとき、パレト教授の社會學的著述に對するロリア教授の辛辣な批評を聴いて、わたくしは、心なからず惑ふてゐましたので、パンタレオニ教授のパレト觀は特に私を喜ばせ、且つ傾聴させました。

『パレト教授の學的貢獻は、先づざつと二つに大別することが出来ると思ひます。その一つは、經濟學の領域における數理經濟學の『完成』で、その二は、社會學の領域における彼れ一流の社會學說の『著手』であります。

す。再言すれば、前者におけるかれの事業は『仕上げ』であり、後者に於けるかれの事業は、『著手』であります。

『改めておこころをりするまでもなく、わたくしは、純理經濟學の一學徒であり、社會學については全くの門外漢でありますから、今言つたパレト教授の學的業績の一半については、全然批評の資格のない者であります。ですからここでは主として前者についてのみ申し上げます。この點におけるパレト教授は、完成に近づいた數理經濟學の殿堂に最後の釘を打込んだ學者であります。』

『パレト教授は、英國のリカルドと同じく、長い間、實業家として金を儲けることに没頭してゐた男です。鐵道に關係したこともありますし、また、銀行業に關係したこともありました。既にご承知でせうが、かれの出身はトリノ市の高等工業學校で、その専攻は機械學、卒業の席次は首位でした。その時分から、かれの才能は充分認められてゐましたので、出身學校から、教授生涯に入ることを極力勸説せられ、本人も多少その意志がなかつたこともありませんでした。』

『が、其の當時のパレト家の財政状態はあまり豊かでなかつたため、講師の僅かばかりの収入では家計が到底持つてゆけないと言ふので、教授生活を断念し、遂に技師になつたのであります。そこで、パレトも同期でその卒業席次で次位をしめた某氏が、大學に止まることになつた。その某氏は、今でも、トリノ大學工學部 (トリノ高等工業學校と同じ) の機械學教授として勤めてゐられるさうであります。パレト教授の先

輩で——、前ロザンヌ大學の經濟學正教授だつた Walrus 教授も、機械技師出身でありました。機械技師出身者には、珍に偉大な社會科學者が多く、たしか、英國の最も偉大な社會學者である Herbert Spencer も機械技師出身だつた記憶してゐます。

『パレト教授は自然科學の全般に通曉してゐましたが、その中でも數學は最も得意でありました。私の如きも、誤られて、一般から數理經濟學者の範疇に知らない中に編入されてゐますが、數學に於ける理解に於ては、パレト教授と私はてんで比較になりません。數學では彼の前に立つ私は全くの子供であります。これは無理もないことで、かれの卒業論文を觀た人は、たゞひ彼が純粹數學者として、その生涯の方針をさだめても、必ず世界有數の碩學になつたであらうといふことに、すこしの疑ひをさしはさまないであらうと思はれるべき、數學的才能はこの頃から發揮されてゐた。』

『かれは、社會現象の底に流れてゐる總ての法則が、數學を通じて完全に探求出来るやうに信じ、無暗矢鱈に數學的方式を濫用した一經濟學者のやうに、一部の人達には解されてゐます。が、これは、パレト教授の著書を充分に精讀しなかつた者の誤解か、若しく、パレト教授の學說の眞髓を、確實に把握することが出来ずして、しかも、數理經濟學といふ殿堂の外觀の美のみに幻惑された低能な追憶者達の誤れる粗述に基くものではないかと思ふ。パレト教授が發表した最初の經濟學文獻 "Cours d'economie Politique" を熟讀するに直ぐだれにも解

るやうに、彼は、自然現象におけるが如く  
社會現象にも、數學的方法を使用するこ  
が便利であるといつただけで、必ずしも數  
學的方法以外に、何等他に良方法がないと  
否定したわけでは斷じてない。ただ、前に  
いつたやうに、彼は機械技師出身丈けに、  
自分が比較的よく通曉してゐる數學的智識  
を、自分の研究の便宜のために、使用した  
に過ぎない。この點に於て、名著『The  
Principles of Political Economy』を著し  
た英國の經濟學者 Marshall などの軌を一  
つにしてゐると思ふ。

『數理經濟學』は、イタリーの流行經濟學派の  
やうに思はれてゐるけれども、一個の獨立  
した明確な學派であるか否かは未だ疑問  
であります。假りにこれを獨立の一經濟學  
派と見做しても、この學派の創設者は、斷  
じてパレト教授ではないと信する。彼の前  
には、英國の Jevons があります。また佛  
蘭西には偉大な Cournot があり、その  
あとには、Walras があります。しかし乍  
ら、これ等の碩學から繼承した社會科學上  
の重要問題、すなはち、『The laws of equi-  
libration』を、經濟現象の研究に於て、見事  
に完成したのは、パレト教授の『Cours  
d'economie Politique』であります。この  
點に於て、彼の學的貢獻は、不朽に輝くも  
のであると賞讃しても差支へありません。  
たれが何と言つても、かれの『Cours』丈  
けはたしかに劃時的經濟學文獻であり、又  
イタリー人の誇りであります。

『わたくしの見るやうに』を以てすれば、今  
から約三十年前に出版されたこの『Cours

d'economie Politique』二巻で、パレト教  
授の經濟學理論にも、また廣く言へば、世  
界の所謂數理經濟學の理論にも明確に  
『Fins』の刻印が押された筈であります。  
彼のこの著によつて、この學派の峰を越え  
たのである。單的に申しますれば、靜的經  
濟現象に於ける法則にしても、パレト教授  
の『一般平衡の法則』は、渾然たる名工の浮  
彫のやうに、これ以上鑿を加ふ可き餘地は  
ないほど完成された法則であります。』

## 五

今日の私は實際幸福でございました。ロリア  
教授の論敵であり、イタリー經濟學界を二分  
して其一を掌握してゐられるバンタレオニ教  
授に面會が出来た許りでなく、しかも、わた  
くしが、一番聞き馴れてゐる英語で、しんみ  
りとした情趣を味はひながら、パレト教授に  
ついての色々な話を聴き、その上にパレト  
教授の令嬢に逢ふことが出来たことなごを思  
ふと、今日といふ一日は、本當に恵まれた日  
でございました。

『パレト教授は、元來が非常な「凝り性」で  
した。一度やりかけたことは、途中でどん  
な障礙があつても、徹底的に仕遂けるとい  
ふのが、彼の性分でありました。従つて、  
その勉強振りが亦凄まじいものでした。  
『Cours d'economie Politique』を著し  
たのちでも、自分の學說體系を種種の方面  
から眺めて見て、もし氣に食はぬ點を發見  
すれば、何度も訂正して見る言ふ風でござ  
いました。かうしたやうな勉強の結果、  
十年後には、『Manuel d'economie Politi-  
que』を出版して、また經濟學界を驚かせ

ました。この點に於て、自分の如きは、パ  
レト教授の『Cours』と同じ時代に出版し  
た『Principi economia pura』以後、これ  
といつて格別纏つたものを著し得ず、汗  
顔に堪えない次第です。

『が、しかしながら、十數年前から、パレト  
教授が經濟學を捨てて、新らしく社會學の  
研究に没頭しはじめたといふことを聞いた  
とき、自分は早速これを中止するやうにか  
れに忠告しました。社會學の門外漢である  
ことを自認する私にても、Auguste Comte  
に創まつた近世社會學が Herbert Spencer  
を経て今日に到つてゐるといふ社會學史の  
大略位は知らぬ譯けではありません。また、  
社會學が未墾の處女地に富み、野心満満た  
る青年學究を吸引する誘惑力を多量に持  
つてゐることを知らぬ譯けではありません  
んが、社會學の地盤は崩れやすい流砂  
(quick-sand)であつて、一度この地盤上に  
足を入れたが最後、だんだん深入りして、  
最後には、水に溺れ死んで仕舞ふ危険が包  
藏されてゐるやうに、私には思はれてなら  
ぬ。言ひかへれば、社會學は一個の誘惑力  
の強い藪のやうに私の眼に見えてならぬ。  
そこで、折角經濟學の領域で功成り名遂げ  
たパレト教授が、この危険な社會學の畑で  
味噌をつけては可愛相だからと思つて、社  
會學研究を中止するやう嚴重に勧告してみ  
ました。しかし、彼はさうしても聴きいれ  
ませんでした。

『前に申し上げたさう、私は若い時ウィ  
ン大學に留學中、Karl Menger 教授の薫陶  
を享けたものであります。そして、先生の

主觀主義的經濟原理を最初にイタリーに輸  
入して祖述した者であります。そのカール・  
メンガー教授が、大著『國民經濟學原理』や、  
『社會科學方法論』や、『經濟學批判』等を、  
一八七〇年代から一八八〇年代の終りごろ  
までに著はして、有名な限界効用説を基礎  
とする所謂心理學的主觀經濟學の礎石を置  
かれた以來、先生は不幸にも純理經濟學  
の領域を去つて社會學の研究に着手せられ  
た。ところが、今言つたやうに、社會學とい  
ふ學問は出口の解らない藪のやうなもの  
ですから、流石のメンガー先生も、ほとん  
ど手がつけられず、先生は苦悶懊惱の晩年  
を送られ、而かも、この方面の研究につい  
て、何等残されることなく無爲にして長逝  
された。まことに惜しいことでした。實に、  
社會學研究が、メンガー先生の命をこつた  
のであります。』

これ等の談話に聴き入る時、わたくしの想像  
は、わたくしが最も尊敬する三人の恩師若し  
くば先輩の上に及びました。其の第一は、恩師  
コモビア大學社會學教授である Giddings  
教授であります。一八九六年、その四十歳の  
折り、『The Principles of Sociology』を著  
はしたのち、ギディングス教授の沈黙は不思  
議にも約三十年つづきました。あそこで考へる  
と、この沈黙の時期は、實に、教授の苦悶懊  
惱の時期であつたのであります。ほこみき日  
曜日も雖も、大學の研究室に出て來られ、決  
して研究を廢されなかつた精力家のギディン  
グス教授、米國社會學界の珍寶であるさうた  
はれるほどの名文章をつづられるギディン  
グス教授、その教授が、殆ど三十年に近い長い間

の苦悶的沈黙をつづけられたのであります。そして、老の漸く迫つた六十八歳になつてから始めて『原論』の改訂版とも見る可き "Studies in the Theory of Human Society" を出版されたのであります。學者の良心の鋭い學究にまつては、社會學はこれ程むづかしい學問でございませう。

その第二は、京都帝國大學文學部教授の米田庄太郎博士であります。米田先生は又、わたくしの恩師であります。その博覽強記に到つては、世界の社會學界にその比を見ないほごであります。十四五歳ごろから五十歳になられた今日まで、一日平均十五時間以上の勉強を一日も廢されなかつた聴きおよび先生の研究ぶりは、懦夫をしてなほ立たしむるものがあります。わたくしが忖度いたしますのに、恐らく世界の社會學的文献であつて、米田先生の讀書から免れてゐるのは、幾冊もございませう。それにも拘らず、米田先生の鋭い學者の良心は、未だ纏まつた一部の體系的社會學書をも著はされないのであります。これに徴して見ても、パンタレオニ教授の御解釋、すなはち、社會學はほんに難かしい學問であるといふことが了解出来ませう。

その第三は、『社會學原理』の著者高田保馬先生であります。大正七年に出版された『社會學原理』は、實に、日本社會學界における劃時的文献であり、高田先生の精力と努力のあこは、眞に「超人」なる形容詞に相當するほごであります。それにも拘らず、謙讓なる高田博士は、この誇るべき『原理』をも、なほ絶版にしたいと公言されるほどの鋭い自己省察自己批判を加へて、學的に苦悶してゐられます。

高田博士のこの種の苦悶は、今後とも長らくつづくことだらうと恐れてゐます。それほご、社會學といふ新しい學問は、苦悶を生むものでございませう。だから、パンタレオニ教授が、親友バレットが苦悶するのを見るにしのびず、斷然社會學研究を中止せよと勸告されたのは、拘すべき友情の發露だと思へられます。パンタレオニ教授は語をつがれました。

『これは忠告したにもかかはらず、バレット教授は、例の凝り性を發揮して、傍目もふらず社會學の研究をつづけた。そして、その研究中に、經濟學の方面では、"Manuel d'économie Politique" を出版し、社會學の方面では、一九一四年に、あの膨大な "Traité de Sociologie Générale" を書き上げたことに成功した。この點に於てわたくしの社會學に對する觀察は、バレット教授に對する私の忠告は、バレット教授にだけは誤まつてゐたのであります。彼は全く「超人」の感があります。それ許りでなく、一日も學を廢さない彼は戰時中にもこの本を訂正増補して、それを上中下の三巻とし、頁數も二千頁を越へて最近に再版を出しました。眞に驚くべき努力であります。』

# 六

バレット教授の晩年の著で、しかも劃時的社會學的文献である "Traité de Sociologie Générale" を繙いて見ますと、その中に普通と異なつた種種の點を發見いたします。第一に、この著述は、バレット教授が六十六歳の時に出版されたものであります。六十六歳!!。これが日本の大學教授であれば、六十の定年を越ゆること六歳であります。おなさけで貴族院

が樞密院に形式上祭りこまれ、僅かの捨て扶持にあづかり、自宅では、日あたりのよい南縁に老猫のやうに……日向ほつこをし、寒い日は蟹のやうに炬燵の中にちぢこまつて、孫達の遊び相手に日を消す所謂樂隱居の年頃であります。無論、力のこもつた著述などは、思ひもよらぬ年頃であります。しかるに、バレット教授は、齡五十を越えたところから新らしく社會學の研究に入り、六十六歳にして、漸く社會學の處女作（或ひは雜誌論文として前に社會學論が發表されてゐるかもしれぬ）を發表されたのであります。これは早熟早老の癖がある日本人に對しての模範とするに足る努力ではございませうか。この意味で、齡既に古稀に近いのかかはらず、續續重要な研究を發表されてゐる穂積陳重博士や徳富猪一郎氏には、特に敬意を表します。

第二に氣のつくのは其の頁數であります。私が所持してゐるバレットの『一般社會學』は、佛譯本で、Pierre Boven が編輯し著者が監修したものであり、第一巻が一九一七年版、第二巻が一九一九年版であります。上下二巻を通じての頁數が一七六三頁であります。しかも、大版でございませうから、その膨大さが想像されませう。單に素讀するだけでも幾月かを要するかと思はれるほどの分量であります。言ふまでもなく、わたくしは大量生産的著述に對する禮讀者では斷じてありません。しかし、古稀に近き老齡のバレット教授がこれを書き上げられた努力と、精力とには驚嘆せざるを得ないではありませんか。

第三に氣のつくことは、佛伊の學者の著書としては珍らしいほご緻密な索引がこの本にな

してあることです。索引は二大別してあります。その第一部は、資料分析表 (Table analytique des matières) で、三十頁の索引、その第二部は、引用著述の著者表 (Table des auteurs et des ouvrages cités) で十九頁、著者數約四百、兎も角も、内容を見ずとも、全く文字通りの博引旁證であります。この位緻密な索引表のついてゐるのは、一寸社會學の著書中には見當りません。この位の索引作成の本場とも言はるべき獨逸でも珍らしい方です。例へば、獨逸社會學文献中、その最高權威である認められてゐる Simmel の大著 *Soziologie: Untersuchungen über die Formen der vergesellschaftung* の如きも、せめてバレット教授の著書の半分位の索引表でもついてゐたら、『研究者泣かせの難解の書』といふ批難を免れたであらう。バレット教授の著書の體裁を見ただけでも、博學にして同時に緻密なバレット教授の學風が覗はれるのであります。

第四に氣のつくことは、この著書が巻頭に "A Madame Jane Regis, Hommage de Vilfredo Pareto." という四號活字でもつてかざられてゐることです。この本をバレット教授が捧けた Jane Regis 夫人は、晩年に妻と離別した寂しいバレット教授と、こんな關係にあつたかは、パンタレオニ教授から聞き洩らしたけれども、思ふに、寂しいバレット教授の晩年を慰めてくれた異性の友達であつたであらう。

私は、ここで、バレット教授の社會學說を詳述する餘裕を持ちませんし、また、その意志も (第二十八頁へ續く)

研究

神の信仰とその種種相

關西大學教授 櫻井 匡

宗教の研究には歴史的、比較的、及び心理的等の諸方法が行はれてゐるが、これらの研究によつて何れの宗教に於ても共通に有するところの根本的要素の一つを認められてゐるものは實に神の信仰であらう。勿論その神を如何様に觀念してゐるかは決して同一である事はない、極めて多種多様なものである、今この小論文に於ては只僅かに如何なる神の信仰が行はれてゐるかを瞥見するに止める。

宗教には神の信仰以外に來世の思想、救極の思想等重要なる要素があるが、然しそれらは如何なる宗教發達階段にも發見され得るものと云ふ事が出来ない。原始的宗教の或ものには殆どかかる思想は見られないものがある。只文字通りに東西古今を通じて宗教が有するところのものは實に神の信仰である。宗教は

何であるか云へば、それは人が神を信じこれと交渉する關係である云ふ事が出來様故に宗教にして神の信仰なきものなく、また神の信仰なくして宗教は成立せずとも言ひ得るのである。然らば佛教に於ては神の信仰を有たない故に佛教は宗教でない云ふ事になるがこの疑問が生ずる。無理もない疑問である。然し釋迦が神を説かなかつたのは理由のある事である。それは當時のバラモン教が餘りに神に耽溺してゐたのを見て、寧ろこれに對する反感から來た結果であつて、宗教上一

時的變則の状態に過ぎない。事實最初は無神教であつた佛教は、釋迦の死後人格的統一を失ふ様になりこれに代はる法身佛陀の思想が生じ茲に元來無神教であつた佛教が事實上有神教と變化して來たのである。故にかく釋迦がこれを教へざりしこの故を以て宗教には神の觀念、神の信仰が必要でないを斷定する事は出来ない。宗教は實に神の信仰である。メンデースは宗教を簡單に定義して“*The Warship of higher Powers*”と言つてゐる。(History of Religion, Introduction.) 而かも彼は單に高等なる靈的存在者を拜するだけではなく、この靈的存在者との關係を調和する必要がある事を説いてゐる。また同じ様な宗教の定義を下してゐるものに彼の有名なタイルがある。彼も亦靈的存在を信ずるこれ宗教であると言つてゐる。(Tylor: Primitive Culture, Chap. XI) その他宗教の定義は無數にあると言ひ、決して言ひ過ぎではないと思ふが、何れの定義に於ても超自然的存在、神を中心としたものならざるはない、神の信仰は實に宗教に於ける根本的要素である。

然らば神がかく宗教に於て重要なものであるのは何故であるか、また宗教は人類に普遍的の事實であつて、原始未開の時代から今日に至るまで何れの時代、何れの人種に於ても常に普遍的に存在したものは何に依るのであらうか、而かもその根本的要素たる神が、人間生活に缺くべからざるものとして考へられてゐるのは何の故であらうか、理由なくてはならない。

凡そ人生と密接なる關係を保つものは人生に對し何らかの價值あるものたらざるはない、

宗教に於ける根本要素たる神(或は靈魂)が人間に永久不變の問題であるのは神が人間に對し價值であるからでなければならぬ。フオイエール・パツハは神は人間である、即ち神は人間性情の外的撮影であると言つてゐる。 (“*God is nothing else than man; he is, so to speak, projection of man's own nature; the outward The Essence of Religion, Eng. Translation.*”) 或は神を以て人間の慾望から生ずるものである云ふ人もある。果して此等の論が正當であるか否かを茲に論じ様とはしないのであるが、私はかかる論を是認するものではない。神は宗教的信仰に於ては最も眞實なるものである。人生そのものよりも眞實なるものとして信ぜられてゐる事實は多くの宗教に於て見るところである。

さてかく宗教に於ける根本要素たる神は如何に考へられてゐるか、また如何にして考へられて來たかのプロセスを考へて見様。勿論極めて原始の時代に於ては神は明確に云ふ事の出來ない靈魂である。刹那に發見されて神は拜されたものもある、また社會組織の進展と共に社會の文化が生じ、この社會の文化に應じてそれその職能を有する多くの文化神が生じて來る。併るにかかる多神も遂には人間の統一を要求する心から一神の信仰へ進展するのである。

今日の有神論に於て尤も進んだ神の信仰は內在的人格的一神の信仰である。神は多くあるのではない、唯一神である、非人格的のものではなくして人格的の神である。而かも神は此の宇宙と無關係なるものでなくて内在する神である。

併しかかる神の信仰は前にも云へる様に原始時代から信じられてゐるものではない、神の信仰は人文の發達と共に進化の過程を経て遂に今日に及んだものである。神又は靈魂と云ふ言葉に於て、またそれが崇拜の對象たる點に於ては同一であるが、その發達の程度に於て、またその發達の方向に於て決して同一である筈はない。甲乙なり乙丙なり、茲に多くの異なる宗教が生じたのである。されば神の信仰はそれら諸宗教の相岐るる分岐點であるとも云ふべきものである。また發達せる高等宗教と發達せざる未開原始宗教ともこれによつて決定されるのである。何となれば吾人は觀念によつて生活するものであるからである。一觀念を得れば人はこのために變化して來る、或宗教觀念を得れば人はその觀念に従つて生き、自らその觀念の表現となるのである。社會が高等なる神の觀念を得ればその社會は在來の低き宗教に於ける神の信仰を去つて新らしき而して高等なる宗教に進むのである、新しき酒は古き皮袋に容れらるる事はない、新しき酒は新らしき皮袋に容れられるのである。宗教史を一瞥するならば、如何なる宗教に於ても、この事實を見る事が出来る。吾人が如何なる宗教を信じてゐるか、如何なる神を信仰してゐるか云ふ事によつて吾人の品性は相違してゐる。キリスト教を信ずるか、佛教を信ずるか、如何なる神を信仰するか、それにあつて吾人の品性に大なる相違を來するのである。

さて神の信仰を大體二種類に分つ事が出来る。即ち多神教と一神教とである。多神教の信仰では數多の神の存在を信じてこれを崇拜

するのである。古代原始人の宗教は多くこれであつた。ギリシャ、ローマ、バビロン、アッシリア、ヘブライ等皆さうであつた。これに反し一神教では只一部を信じこれを拜むのである。キリスト教、モハメット教等はそれである。併し一神教の中にもまた様變つた種類がある。萬有神教 (Pantheism) 及超絶神教 (Transcendental P.) もある。これらは何れも唯一神が宇宙の原因であることなるものである。一神を拜するにしても拜一神教 (Monolatry) と稱して多神の存在を信じ乍らその中の一部だけを拜して他を排するもの、或は交代神教 (Henotheism) として多くの神神から一最高神を認め若くは諸神中の或者を撰んでこれを交互に拜するものもある。

萬有神教でも同じく一神を信仰するのであるが、この方では宇宙萬有を以て寔なりとなし只眞の實在は神であること云ふのである。スピノザの神論はその代表的のものである。彼は神のみ獨り實在である事を唱へ、其實在なる神は無限にして只一つである。神は萬物の内存在の原因である。即ち神は萬物を然かあらしむことの原因なのである。而して神は超絶的原因ではない。彼の「神即自然」(Deus Sive Natura) はよくその神觀を現はしたものである。

超絶神教に於ては神と世界とを對立せしむるものであつて、神は一神である。また創造者である。併し一度世界を創造した以上は大工が家を建てた後と同様世界と何ら交渉がないと説くものである。世界と神とは相別れた別箇の存在となつてゐると説くのである。内在的一神論は今日キリスト教の信するもの

で、唯一なる神は世界と相即不離の關係を保ち、而かも神と世界とは、別個の存在であつて神は世界以外にあるも、尙ほよくその力を以て、自然及び人間の中に宿ること云ふのである。その神は人格的の唯一神であつて世界の統治者である。

多神教に於ける神は或る特殊の職能、性質を擬人したもの或は或る動物、植物、自然現象等を擬人したものである。而して宗教はその發達の程度と性質とに従つて大體三つに分類されて部族宗教、國民宗教、世界宗教になつてゐるが(學者によつては二つに分けてゐる。自然宗教と倫理宗教であつて、チーレ教授の如きはこの説を立ててゐるがこの説では部族宗教と國民宗教とが合して自然宗教とされてゐる様である) この多神教は實に國民宗教の特色とも云ふべきものである。

如何にして多神教が發達したか、これには様々原因があるが、先づ幾何かの部族が相集り相團結して一つの國家社會を造る様になるに各部族は各々それぞれの自分の神を保存し様とする。故に國家となつて政治的に社會的統一は出來ても宗教の方面に於ては容易に在來の信仰を捨てて譯に行かず、さりて宗教上の事は中權力を以て高壓的に出たところで根本からこれを如何にもする事の出來るものではなく依然として様々なる神が拜まれる様になるのである。即ち茲に多くの神神は現はれるのである。また多くの部族が集り相團結する結果茲に神神の間に有機的關係が生じて來る。そしてその關係は直ちに人間生活に範をさるゝのが常であつて、人間の家族關係、社會的關係の如き神神の關係が生ずる。

家族關係には父があり、社會關係には主領、君主があつてそれぞれの統一をなすのである。その如く神神の關係にもこれが生じて、神神の君主、親父なるものが現はれる様になる。

如何なる神が君主となり、親父となるか云ふに、それは凡ゆる方面に於て他に優れた勢力を有する神でなければならぬのは勿論である。ギリシャの神神の中ではゼウスが最も勢力ある神である。従つてゼウスは神神の主領として、また親父として現はれてゐるのである。彼のヘフエストスの話は王者としてのゼウスを現はすものであらう。この話はゼウスが或事から怒つて自分の妻のヘラを天空に吊した。するにこれを見て可愛相に思つたヘフエストスはヘラを助けたのであるが、ゼウスは自分の爲す事に手出しをしたこと云ふので非常に怒つてヘフエストスを大地に投げ付けた。そのためヘフエストスは跛になつたこと云ふのである。これはゼウスがギリシャの神神中の王者である事を示すものである。

またアポロの子アスクレピアスの話もそうである。アスクレピアスは醫藥の神である。非常な名醫とも云ふべきもので一度彼が術を施すに死ぬ程のものも全治するのである。然しこれに對して不平なのは下界の神ヘーデスである。何となれば醫者の神がかく名醫であつて死ぬべき者さへ全快するのであるから従つて死んで下界に下るものが減る譯である。そこでヘーデスは不平の餘りこの事をゼウスに訴へてかく下界に下る者をなくして丁度醫藥の神を責めて呉れる様に願つたのである。それ故ゼウスは怒つて雷火を投じてアスクレピアスを殺した。するにその父アポロは自分の

子が殺されたのであつて無念で堪えない、何んにかしてこの恨をはらしたいが相手はゼウス君主神であるから對抗する事が出來ない、仕方なく雷火を作つたケクロボスを殺したと云ふ事である。この話に見てもゼウスが天上地下、地上に於ける君主である事を知るのである。また家族關係に於ては家長であり親父である。この事は獨りギリシャの宗教にのみ見るものではなく、何れの國にも見る事が出來るのである。

然し多神の發生は獨り以上の如く各部族の集團を以て唯一のものであることは言ふ事が出來ないのである。各部族、都市の神と云ふ觀念が漸次忘れられて來るが多神はまた別の神様から生じて來る。社會生活が複雑になるにその生活様式も多種多様にあり、一國民中には農耕を業とするもの、牧畜を業とするもの、工業、商業等それぞれ異つた職業が現はれて來る。そしてそれに應じそれぞれの職能を有する神が生じて來る。農耕の神がある、牧畜の神が生じ、藝術の神、醫術の神、工作の神、戦ひの神等數限りなく職能を異にする文化神が生ずるのである。

チーレ教授の分類によれば前に述べた様に自然宗教及倫理宗教の二つとなるのであるがチーレ教授は更に自然宗教を分けて三つとしアニミズム、擬獸的多神教、擬人的多神教に於ては自然の勢力、精靈を以て神とするものである。宗教の發達の上から見れば未發達の時代の宗教に殊に多々見るところのものである。勿論かかる時代に於ける神は今日

吾人が唱ふる様な明確なる人格的の神ではない。只靈魂たるに過ぎない。その如何なるものであるかに就て二三述べて見様と思ふがこれに先だち神の信仰は漸次低いところから高等なる神の信仰へ進展して行くものであるか否かを決定する必要がある。

大體に於て宗教は人文の發達と共に發達するものであると認められてゐる。勿論その最原始的宗教がアニミズムであつたか、フィチンムであつたか或は祖靈崇拜であつたかは議論の存するところであるが、何れにしても進歩せざる宗教から高等宗教へ進展したものである。神の信仰に於ても決して最初から高等なる人格的の唯一神の信仰であつたとは考へられない。低級な呪物教から、或はアニミズムから漸次發展して固有名を有つ様になり多神教となり更に一大發展をして人格的一神教の信仰となつたものである。然し神學者の中には宗教がかく發展したものである事を拒むものがある。英國のセームス・オール氏の如きは一神云ふ意識は人類歴史の開始の時から在るもので低い拜物教の如き宗教から進歩發展して來たものではないと論じてゐる。

またフーアベーンの如きも『無神論より拜物教に進み、拜物教より種種の階段を経て一神教に達した人民は一つもない』と云つてゐる。然しこれらは發展云ふこの意味を誤解してゐるのではあるまいかと思はれる。成程一族一國家にして明瞭にその發達階段の跡を示してゐるものはない。けれどもされば云つて宗教に發展の跡がないか云ふに決してさうではないのである。神學者の或者は最初完全なる宗教が天啓によつて與へられたも

のである、只それを人間が漸次これに背く様になり宗教そのものも墮落したと云ふのである。即ち完全なる宗教が不完全なものとなつたのである。然し不完全なものが漸次完全に進歩したと云ふの何れが人間の理解に適ふであらうか。宗教は凡て進歩するものである。吾人は一日一日墮落するのではない。進歩するのである、来る年毎に進むのである、勿論他面に於ては悪い方面も同時に進歩する事もあらう、併しそのために全然墮落したとは決して云ふ事は出来ない。善の方面に於ても發達進歩してゐるのである。チーレ教授は『宗教の發達は歴史に於ける宗教的觀念の進化と言ふも或は宗教的の人の進歩或は本性宗教的な人類の進歩とも言ひ得る』と云つてゐる、宗教は人類の發達と共に發達し、神の信仰も亦發展するものである。

而してその發達階段に於てそれぞれ異なるところはあつたが、未だ完全なる人格的の神の信仰高等なる宗教信仰に達しない時代の宗教に於て神として拜するところのものは如何なるものであるか、これは極めて多種多様であり、且つ種族を異にし國家を異にするに従つて一相違するものである。或は精靈を以て神とするものもある、また動物植物無生物、或は自然界等を神として拜するもの等その類極めて多く一一例證する事は出来ないが、二三の例を引いて見るならばそれによつて、それらの内の何れかが、吾人の心のどこかにひそめる力として存する事を知り得るであらう。愚かしき迷信に氣付き乍ら、尙ほそれらの觀念に支配せられてゐる事は、吾人の常に經驗するところであると思ふ。

文化發達の幼稚なる者に於ては可見のものと不可見のもの、また物質と精神との區別を知らない。故にこの程度の人が靈魂を認めて神とし拜んでゐると云つても實際は眞の意味で靈魂を認めてゐるのかさうかは疑はしいのである。不可見の靈魂も彼らには可見のものさしなれば満足が出来ないのである。そこで彼らは靈魂が存在する事を信じてゐるが、それは吾人の考ふる様な不可見の靈魂ではない、可見のものである。即ち彼らは靈魂は稀薄な氣體であるを考へてゐる、靈魂は氣息と同一視されてゐるのである。ヘブル語の靈の意味の「Nephesh」と云ふ字は同時に氣息の意を有してゐる。ギリシャ語の ψυχή も靈魂と氣息の兩意味を有する。ラテン語の Anima 及び Spiritus も亦さうであるし、西部オーストラリアの Wang 是氣息、心靈、靈魂の三重の意味を有つものである。かく靈魂と氣息とが同一視されてゐるのは人の死は氣息の休止する時であるところから來てゐるものの様である。従つて靈魂は可見のものであつて、呼吸する場合口や鼻から出るものがそれであるを見るのである。其他『影』『霧』『煙』等と同一に考ふるものがある。例へばアフリカのブルー族及びエスキモー人の間に於ては『影』と同一であるを考へ、オーストラリア人では『霧』『煙』等と同一に考へられてゐる(Brinton: Rel. of Primitive People)。

かく未開原始人は靈魂が可見の存在であるを考へたのであるが、この靈魂はまた凡ゆる事物に存するものと考へたのであつて一切の活動は皆靈魂の働きによるものと信じたのである。かく信じてそれぞれの靈魂を拜んだので

ある。然しさればさて凡ゆる事物が靈魂を保持するものであるからして凡ゆる事物が神のものとして拜まれたものではない。勿論或場合場合に於ては拜まれてゐるのであるが、それは或る時、或場合に刹那的に拜されるのであつて、一定の崇拜物となつたのは餘程進んでから後である。然しかる場合に於ても、神的存在として拜されるものは凡ゆる事物一切がさうである云ふのではない。或る撰擇が行はれる、そして或る一定の神的存在が確立する様になるのである。然らば如何なるものが撰定せらるるか云ふに、勿論原始人が意識して而かも比較して撰定するものではない。併し撰定する以上何らかの目標を有つてゐるに相違ないのであつて、ヘフデング氏は價值判斷から爲されてゐると云つてゐるが、原始人が價值判斷を行ふ様になるのは餘程進んだ文化階段に於てである意見なければならぬ。或る者はまた驚異の感情がその撰定原因である云ふてゐる。成程原始人は知的でなく寧ろ感情的である事は勿論であつて、驚異の情がその要因をなす事は明かであるが、さればさてそのみがさうであるとは見る事が出来ない。要するに吾人は只推量するに過ぎなく、事實に於ては極めて不確定的の方法によつて撰定されてゐるに相違ないのである。夢の如きもまた極めて強き要因である。原始人が何か絶大なる力、神秘的力があると思ふものは直ちに神的存在となるのである。従つて彼らの信する八百萬の神は一定した神神ではない、更に新しく彼らの注意を引くものが現はれば、それがまた新しく神的存在となるのである。

かかる見地からして原始人は凡ゆる存在を神として信ずるのであるが、それらは動物であり、植物であり、または無生物である。進んで来れば人間を拜する様になり一層進んで人格的の信仰となるのである。

石の如き無生物も神として拜されてゐる。或種族では小舎を出る時一つの石が日光を受けて光つてゐるのを見付けるをこれを拾つて守り神に信じ肌身に付けて行くのである。小さな自然石殊に奇形のものには一種の魔力神秘力があるものと考へられたのである。獨り自然力ばかりでなく隕石は世界到る所に於て拜されてゐる。ローマの『神の母』に稱せらるる Caeli の石の如きもその一つである。この石はローマがハンニバルのために攻め立てられ危険に陥つた時即ち紀元前二〇四年に運ばれたものと云ふ事である。舊約聖書の中のヤコブの付説には彼が石に油を注いだ所をベテル(神の家の意味)と名づけたと云つてゐるが、これは石そのものが神聖なものであつて、而かも神の住所であること云ふ當時の信仰を示すものである。その他にも石は神聖なものと

して、犠牲の動物の血を受ける様な事があるが、これも石が神であること見だか、或は神を代表するものであつて、神の食物たるその犠牲の血を受けるものと信じただから行つた事である。

無生物而かも生長も活動もなき自然石の如きものであつて神的存在に考へられるのであつて生長發達する植物、動物等が神的なものと考へられるのはむしろ當然の事と考へられる。或未開人の如きは樹木の子孫であること考へてゐる。森林なごの中に在つて生棲してゐた時代

には樹木は彼らの生活に必要な種々の要求を満たしたと見る事が出来る。これらの原因、から樹木との密接なる關係がある様に考へられさせては自分らは樹木の子孫であること云ふ様な考へが出来たものであらう。北歐スカンデナヴィアのイグドラジル(世界樹)の考への如きは樹木と萬物との密接なる關係を示すものである。穀物は農耕民間に於ては尤も重要なものとされて拜された。

動物には威風堂々たるライオンの如き、猛猛なる虎、智慧に富める象、巧猾なる狐、神秘的なる蛇の如き何れも神的存在として原始人の拜するところのものであつた。人間と動物との關係には植物に於ける如く二種の關係がある。一は親密の關係であり、他は對敵關係である。即ち植物に於ては有益なる植物、有害なる植物の二種あるがため自然これらに對する關係は一樣ではなく二つの態度を生ずるのであるがその如く動物との關係に於てもこれをみるのである。一面に於ては動物の超人的な力を賞しこれを得んとする態度があるが他方に於てはその超人的神秘的の力が起す危害より免れんとし防がんとする態度に現はれる。さてかく神聖視して拜まれる動物で尤も普通なるものは鳥類、蛇等であらう。ポリネシア人の神話による神は鳥の聲で人に話したと言ひ、従つて鳥の囀るのを理解し得るものは即ち神と會談し得ること同じ事だと言つてゐる。蛇の信仰は極めて廣く、或は祖先の靈を宿す神とし、或は青春の神として拜まれてゐる。Zulu-Cottes 人は彼等の祖先は蛇の形を以て彼らを訪ねて来ることを信じ蛇の現はれる時には牛乳等を以て大ひにもてなすこと云ふ

事である。またニューギニアの東方にある島 Kiriwina に於ては土人等は蛇は彼らの先祖である首領であること考へ、蛇が人家に出る時には首領が訪ねて来たことを信じる、そしてかく首領が訪ねて来るのは何か悪い事の前徴であること考へ出来る丈速かに家から出て行く様子を方法を講ずる。そして丁寧なる首領に對する敬意を表し、何の害を爲さざる様に祈禱をするのである。然し蛇を決して殺す事はない、殺すに殺した者に病氣、さては死を來らすこと信じてゐる。(G. Brown: Melanesians and Polynesians.) また蛇は生殖の神としても信じられてゐる。アウガスタスはその母がアポロの神殿に於て蛇と交接して生れたものだこと云はれてゐる。(Frazar: Golden Bough, Book VIII.) 或はまた蛇形の石を作つてこれに生殖の力があること信じられて祭儀が行はれてゐる。インドの Naga 祭禮はそれであつて禮拜者は婦人に限られてゐる。其他蛇が性的象徵として男性の象徵に現はされてゐる事は明白の事で茲に云ふまでもないこと思ふのである。更に人間の崇拜が行はれてゐる、二方面から人格化されてゐる、死者崇拜、生者崇拜である。吾人が尤もよく知るところであつて、茲に論ずるまでもないこと思ふ。

さて以上に於て例證した様に原始未開の時代に於ては只利那的に眼前に映するものを以て直ちに神格的なものに見るのであるが、漸く文化の程度進んで来れば、神的存在はかかる一時的利那的不定のものでなくなり一定の名稱一定の性質を備ふる様になつて来る。そしてまたそれらの神は各各異なる職能を有しその職能の分るるに應じて種々の分化的神が生

ずる。ニューギニアランドでは樹木を作る神はタネであり、山を作る神はルーであり、タンゴラは魚を作る神としてそれぞれの職能に應ずる神として信じられてゐる。然しかる難多なる神的存在は漸次人格的の神となり、或類觀念によつて同一種類、同一職能、各様の神は結合して一神となる。尤もかかる場合多くの神の職能、性質が一神に結合して、その一神に於てそれらの神の職能、性質を現はす様な場合もある。また同類の神が一團若くは一神に結合する時に他の同類の神の一團體又は一神と相對立する様になつて來るものもある。兎に角かく同一種類、性質、職能の神が一團若くは一神に結合する事實は多神から一神への進歩過程を示すものである。即ち諸神の中の一神が主權を握る事によつて他の諸神の職能性質をも一神に集めて一神となる場合及び諸神の神たる所を基礎として發達するものである。ゼウス、アポロン、アテナを中心とする三神、ゼウス、ポセイドン及びヘデスを中心とする三神の如きは前者の例である。

さて以上に於て極めて粗雑な排列を以て神の信仰の種種相を述べた考であるが、結論として一言し様々思ふのは宗教は人間共通の事實であること云ふ事である。宗教なき人はなく、人にして宗教を有たざる者はないのである。勿論既成宗教の何れの宗教、何れの派に屬するものではない。蓋しキリスト教、佛教等の既成宗教に屬するを以てのみ宗教を有すと思ふは大いなる誤りである。佛、基、神道を信ぜずとも尚ほ吾人は宗教的生活に生き得るのである。(大正十三、十二、三)

# 學 內 報

## 相撲部優勝祝賀式

別報、本學學友會相撲部が、全國の覇權を握つた去る十一月十日の翌十一日午後零時から千里山學舎講堂に於て、その優勝祝賀式が舉行された。宮島本學學友會副會長、賀來相撲部長、その他教職員及び選手並に學生多數出席、學歌合奏裡に開式、宮島副會長の讃辭、賀來部長の挨拶、選手代表馬場紀夫君及び應援團長八澤俱好君の挨拶等に次で、學生有志の慶祝の辭が交繰返され、午後二時歡喜の裡に閉式した。

式後選手並に應援團一同、會て獲得した無數の優勝旗を先頭に、徒歩で吹田町に到り、同町を一巡して吹田驛前に於て解散、各自その日の夕刻から舉行される提灯行列に参加するため福島學舎に集ひ寄つた。

## 野球部優勝祝賀式

同志社、關西學院並に本學の三校野球リーグ戦に、本學野球部が遂に優勝の榮冠を奪取したことは別項に於て報じた通りであるが、本リーグ戦の最後に、寶塚球場に於て強敵關西學院を破つた日の翌日、即ち去る十一月十八日午後一時から、千里山學舎講堂に於て、野球部優勝祝賀式が盛大に舉行せられた。定刻宮島學友會副會長、岩崎野球部長、その他教職員、選手並に學生多數出席、學歌合奏裡に開式、宮島副會長の讃辭並に將來に對する激勵の辭、岩崎部長の挨拶、櫻井教授の所感、野球部主將並にマネージャーの答辭、學生有志の喜びの辭或は激勵の辭等が交述べられ、盛會裡に午後二時半頃閉式した。

## ア式蹴球部優勝祝賀式

別項所報、關西學院、神戸高商及び本學の三校間に於けるア式蹴球リーグ戦最後の決勝戦である神戸高商との戦に、見事強敵を破つて、優勝の聲譽を本學側が恣にした日の翌日、即ち去る十一月二十七日午後一時から、本學千里山學舎講堂に於て、同部の優勝祝賀式が舉行せられた。

定刻ア式蹴球部長水谷揆一教授、その他教職員、選手並に學生多數出席、學歌合奏裡に開式し、水谷部長の挨拶、外に教授講師數氏の讃辭所感等が述べられ、選手代表の答辭があり、次で學生の有志が、交立つて感激に満ちた喜びの辭を述べて、午後二時半頃盛況裡に閉式した。

## 野口十藏氏の植樹寄贈

本學大學豫科第二學年在學野口茂樹君の尊父野口十藏氏は、這般本學千里山學舎に多數の植樹を寄贈せられた。ここに深く同氏の芳志を謝する次第である。

## 宮島專務理事の本學内容説明

去月四日府立住吉中學校に於て開催せられた大阪府立中學校長會議に、本學專務理事宮島綱男氏は、招聘を受けて出席し、本學の内容に關して詳細説明するところがあつた。

## 學部第二學期授業終了

本學學部各科各學年共、去月二十日を以て大

正十三年度第二學期授業を終了した。  
**大學豫科第二學期授業終了**  
本學大學豫科各學年共、去月十二日を以て大正十三年度第二學期授業を終了した。

## 大學豫科第二學期試験施行

本學大學豫科各學年共、去月十七日より同二十四日まで、八日間に亘り、大正十三年度第二學期試験を施行した。

## 專門部第二學期授業終了

本學專門部各科各學年共、去月十二日を以て



野口十藏氏の近照

## 專門部豫科第二學期授業終了

本學專門部豫科各科各學年共、去月六日を以て、大正十三年度第二學期授業を終了した。

## 專門部豫科第二學期試験施行

本學專門部豫科各科各學年共、去月十五日より同十九日まで、五日間に亘り、大正十三年度第二學期試験を施行した。

## 第二商業學校第二學期授業終了

本學第二商業學校は、去月十一日を以て、大正十三年度第二學期授業を終了した。

## 第二商業學校第二學期試験施行

本學第二商業學校は、去月十五日から同十九日まで、五日間に亘り、大正十三年度第二學期試験を施行した。

## 第二商業學校第二學期終了式舉行

本學第二商業學校では、去月二十五日午前十時から、福島學舎内同校講堂に於て、大正十三年度第二學期終了式を舉行した。定刻木下同校主事その他教職員出席、木下幹事の訓示があり、後各級擔任教諭から種種注意するところがあつた。

## 深野賛助員の歐米視察

本學賛助員深野憲一氏は去月十日横濱出帆サイベリヤ丸にて歐米視察の途に就かれた。

## 田所評議員文政審議會

本學評議員田所美治氏は這般文政審議會委員を仰付けられた。

## 佐々・松崎兩講師の轉居

本學講師佐々、松崎兩氏は今回左の通りそれぞれ轉居した。

大阪府三島郡吹田町字濱の堂 佐々 穆  
大阪府三島郡吹田町五四九番 松崎義盛

## 相撲道場の新設

體育は智育と共に凡ゆる意味に於て、人間の

教養に缺くべからざるものである。今は、今更言ふまでもないことである。幸ひ軌近各種競技が一般學生の興味を惹く。特に著しく自然體育を助長してゐるのは、喜ぶべき傾向である。言はなければならぬ。

本學學生も亦相撲に於て、野球に於て、蹴球に於て、庭球その他一般陸上競技に於て、それぞれ活躍してゐるが、殊に相撲は本學に於ける諸般の體技中、最も光輝ある歴史を有し、今や全國學生相撲界にその覇を稱へてゐる。こゝは既に周知の事實である。而して、近來本學の發展特に見るべきものあるに際し、この歴史ある相撲にも大いに改良を加へ、益その特長を發揮せしめ、延ては範を斯界に示すため、即ち具體的に言へば、從來學生がその技を練るために餘儀なく市井の土俵を借りてゐた。こゝから生ずる種種の弊習を打破し、且つ出来るだけ多くの學生に、寒暑晴雨を問はず、土俵に上る機會を與へ、以て保健上並に風教上萬全を期するため、本學は過般來千里山學舎學庭の一角に、新式相撲道場を起工し、この程漸く竣成した。(第十七頁寫眞參照)

### ガウエン博士と千里山學報

北米ワシントン大學教授ハーバート・エッチ・ガウエン博士から最近本學宮島教授宛に左の通りの書信を寄せられた。文中にも出てゐる通り、同博士は月々本學から送付してゐる千里山學報に對し、特別の好意を表して居られる。

Seattle, November 10, 1924.  
My dear Professor Miyajima,  
I am really ashamed to write because my promise to send you some photos, of

our University and a photo. of myself is so long overdue. But things are sometimes better done in instalments than not at all—so I am sending my photograph by this mail, and am awaiting the promise of some good photos. of the University to send them on later.

I often think of Kansai—especially when your good paper (Kansai University Bulletin) come every month or so. Much has happened since my visit over a year ago—but nothing dims the memory of all the kindness I received at Osaka. Please remember me to the kind friends I met on that occasion—and assure them of my continued gratitude.

With my kind regards,

I am,

Yours very faithfully,

HERBERT H. GOWEN.

右抄譯

私の方の大學の寫眞數葉並に私自身の寫眞一葉お送りする旨の約束を永らく等閑に附してゐる。こゝを誠に申譯なく存じます。然し、全然義務を果さぬよりも、濟し崩しにでも果して行く方がよい場合もあると思はれますので、このたびは先づ私自身の寫眞をお送りして、大學の寫眞は後便に譲ることに致します。

私は屢關西大學のこゝを、殊に月々千里山學報を頂戴する毎に、貴學のこゝを想ひます。一年以上も前に、私が貴學をお訪ひしてから、いろんなことが起りましたが、然し何ものも、私が大阪で受けた御好意に關する總ての記憶を薄らけるものではない。ま、宜しくお傳へ願ひたく、又私の不斷の感謝の意を御傳へ願ひたいと存じます。

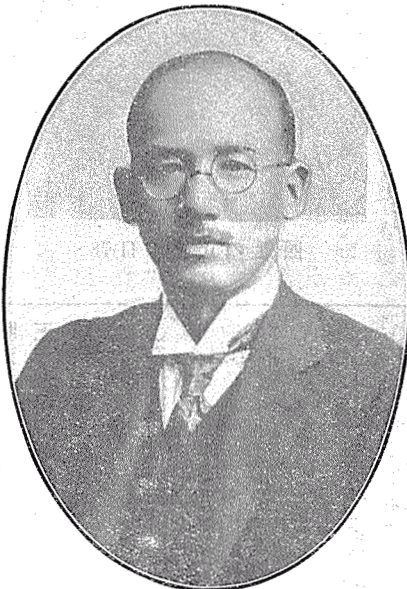
### 校友の面影

▲實業家 永田宗太郎氏▲

(明治三十八年法律學科卒業)

氏は本學卒業後直ちに上京したが兵役關係で一度歸郷、一年志願兵として三十七聯隊に入營し、除隊後再び上京し、貴族院事務局に職を捧じた。時恰も桂内閣の時代で氏が二ヶ年間事務局の一隅から伺ひ得た政治の實際は何事をも、若き氏の心に語つたであらう。幾

は實業界に入るべく志を立て、先づ帝國興信所に入つて先輩後藤武夫氏の手厚い指導の下に實業界の表裏を具



永田宗太郎氏の近照

收めて行くには堅實此の上もなき事業であり後者は香水及び化粧品の製造販賣を主とし、以前から南洋印度支那方面に多大の輸出をしてゐたが近くは内地向製品にも手を染めつつあるこの由である。以て氏が實業家としての眞面目な風格の一端を偲ぶべきではないか。

『吾々が實業家として、立つて行くに於てはその昔學校で教つた法律上の智識がこれ程役に立つかわからぬ。複雑な法律問題は専門の辯護士を頼むにしても決して官制を押すやうな事もなければ、日常手形の受渡賣掛金の處置について

も完全に會社の權利を保護して自分の職責を完うするこゝの出来るのは一に此の賜である。』こゝは氏が近親にもらす述懐の一節である。最近東都に於ける同業者三十餘名からなる東京化粧品製造聯盟會に氏が理事として活躍しつつあることは以て氏が益出て益壯なる將來を豫言するものでなくて何であらう。明けて漸く四十二歳、愈働き盛りの齡たるに於いてをやである。氏の故郷は淡路島の三原郡倭文村、永田前東京市長は親籍の間柄である。現在夫人は東京で簡易な生活を営んでゐるが、毎年正月には郷里に老母を訪ねて新玉の年を壽ぐ。云ふ——又氏が營利に吸吸たる一凡俗實業家でないことを知るに充分であらう。

校友彙報

校友會大阪支部秋季大會

恒例の校友會大阪支部秋季大會は去る十一月九日、小春日の一日を紀州和歌之浦方面に催された。午前八時四十分難波南海電車停留所に集つた一行は九時發の急行で和歌山に向ひ、十一時過和歌山著直ちに紀三井寺行の電車に乗り換えた。同所にて簡単な中食を終へ三三五五語らひ合ひながら電車で和歌浦に向ひ、途中片男波等美しい景色を賞しつつ時刻の三時には殆ど會場である米榮樓に集つた。三時半開會砂川支部長の挨拶があつて宴に移つたが席上美妓あり、和歌の勝景亦目前に展じて歡談數刻、手踊、手品等の餘興に興を盡し薄暮散會、打連れて歸阪の途についた。當日の出席者は次の通りであつた。(順序不同)

板垣不二男、岩本政市、岩崎卯一、石川敏雄、岩尾康、飯島善之助、島田繁太郎、橋本鹿藏、花井壽造、西本政五郎、西尾傳次、富田金三郎、大崎萬太郎、岡部庄次、和田千一、和田相也、川浪辰次郎、神田榮吉、桂忠雄、吉野謙吉、吉村種藏、吉藏文平、高木益郎、垂水善太郎、武森武市、但馬直吉、田川七郎、辰巳經世、高梨乙松、田中英一、丹二郎、田中藤作、中村秀光、内藤正剛、中川典之助、中村虎次郎、中村敏雄、中村公雄、中務平吉、中井彌六、室石常秀、浮森大次郎、野村吉藏、野口政次郎、黒川雲登、黒田莊次郎、山口房五郎、安岡伸孫、山根龍藏、山本彌一郎、増山忠次、丸山普生、深川重義、藤田若水、後閑直太郎、小泉幸治、近藤友房、榎原次郎、秋山卓爾、櫻井匡、菊池金次郎、木戸卯之助、清成五六郎、木下孫一、木下清一郎、湯原慶太郎、宮森作造、

三野莞爾、道端常治郎、三島律夫、島田菊次郎、白川朋吉、清水新造、森内梯吉、森川太郎、關豐馬、砂川雄峻、岩岸殿、野村滋藏、濱田昌藏、本田武藏、木村三太郎、戸田省三、清水榮松、谷田俊市、金井正夫、中村良之助、中村眉山、小林茂三、後藤種吉、岡本義男、高木敏夫、松山藤雄、花本春憲、池島源之丞、大隅實太郎、野中轍、向は和歌山市在住の校友、加藤清、永田良雄、和田右膳、中尾武雄の諸氏は今回の大會について種種盡力せられ、更に當日の出席者各自に紀州名物密柑製酒盃一個宛寄贈せられた。共に厚く感謝の意を表する。

八蘆會秋季懇親會

大正八年度の卒業生からなる八蘆會では去る十一月廿二日夕、住吉公園内廣田屋に於てその秋季懇親會を開いた。出席者は左の通りで懷舊談に一人の興を添え、十時半散會した。當夜宮島事務理事も招待を受けたが校務の爲め野村幹事代つて出席し種種歡待を受けた。高木龜太郎氏、飯島善之助氏、田中英一氏、田中藤作氏、高原順吉氏、中村八十一氏、楠野泰夫氏、清水嘉市氏、柴田勇助氏、矢野兼三氏、高木敏夫氏、正木公雄氏、山本勝市氏、向は改選の結果今回の幹事には左の諸氏が當選した。

飯善善之助氏、高原順吉氏、中村八十一氏

校友動靜

西村勝太郎氏(大九經) 去年九月初旬コムビア大學に入學目下商學一般について學習中、尙同氏目下の住所は次の通りである。

Mr. K. Nishimura,

9. West 98th Street, New York City, U.S.A.

井上孟氏(大二三經) 昨冬一年志願兵として鳥取市外第四十聯隊に入營、所屬中隊は第九中隊第六班である。

矢野國民氏(大二商) 昨冬十一月二十日進藤字一氏の媒酌で壹岐鶴子氏ミブルトン牧師司式の下に華燭の典を舉げた。

前川美知氏(大八法) 從來神戸稅務署に俸職中の處今回兵庫縣稅務署に轉じた。板橋菊松氏(推) 今回新に日本バステル畫研究所を興し京都市今熊野(南日吉町)に本部を置いた。

阪下德道氏(明四三法) 今回警視總監官房係長に任ぜられた。

校友住所移動

河内久彦(大七法) 兵庫縣川邊郡小田村杭瀬字神田二一

高田密藏(大二法) 大阪市外豐崎町北長柄二七一辰巳氏方

菅田實三(大九法) 北區黑崎町八九

永石光雄(大二法) 大阪市外中本町中道七一

見村賢治(大二法) 神戸市兵庫縣土木課

早山勇次郎(大五經) 大阪府西成郡西中島町字濱路五二六

阪下德道(明四三法) 東京市麹町區有樂町一一二警視廳官舎

鶴岡金次郎(大二法) 東京府荏原郡玉川村瀬田一八〇四

吉本彦次(推) 市外豐中村新屋敷常盤通二一二三

中永美雄(大二法) 西成郡鷺洲町大仁一七九

和田一佐(大二法) 東京府荏原郡馬込村字谷中一一三九和田清直氏方

松井孝藏(大六商) 大阪市外天王寺村一七三八

平田勉(明四四商) 東京市外尾久町字下尾久一四一

西山正雄(大二三法) 名古屋市東區大曾根一五〇

蘆田茂里男(大二三商) 八千代生命社宅十號

河村宜介(大二商) 南區天王寺眞法院町一二德川氏方

永田傳市(大二三商) 京都市下鴨宮崎相生町西野

柴田勇助(大九法) 市外十三堀一三六東田方

休橋南詰

校友改姓名

(舊) 西村勇次郎 早山勇次郎

(新) 大五經 林茂十郎 柳川茂十郎

校友諸氏二告

例年ノ通り大正十三年度本會會員名簿既ニ出來致シ居リ候間御入用ノ方ハ郵券四錢相添へ本會宛テ御申込被下度候

大正十四年一月

大阪市北區福島

關西大學校友會

校友逝去

大正十三年十一月七日

元大阪府會議員 多賀谷 陳氏

(推薦校友)

右訃音に接し謹んで弔意を表す

# 學生彙報

## 相撲部奮戦して優勝す

學生角界、否な學生運動界の總ての部門を通じて、年中行事の隨一に數へらるべき大阪毎日新聞社主催全國學生相撲第六回目の大會が去る十一月八、九、十の三日に亘り、府下堺大濱に於て開催された。前年度の同大會に於て、竹田選手の優勝を見た本學學友會相撲部では、願はくは個人、團體共に、最後の月桂冠を悉く我手に奪取せんものと、必勝の意氣をさまじく、同じく意氣天を衝く多數の應援團に擁せられて、左記選手諸君が陣頭に立つた。

平野 尙(大豫三) 村上義夫(專法一)  
秋山源藏(大法一) 馬場紀夫(大法三)  
竹田繁七(大商二) 補山口多賀藏(大豫二)

果然、龍擺虎搏幾接戦の後、選手ミ應援團の意氣遂に大濱原頭を壓して、優勝の榮冠は見事本學選手の頭上に輝いた。ここに當時の戦跡を省みて、喜びを新にしやう。

## 第一回戦 日本醫專——本學

前日を以て中等部の大體を終つて、第二日(九日)は早朝から、全國各大學專門學校の猛者が、勢力を競ふ專門部第一回戦が開始せられた。昨年の本大會に、本學ミ會して三敗二勝した日本醫專は、ここに再び本學ミ力を競ふことになつた。劈頭本學平野、病後物かは、一舉に敵を倒して、應援團に先づ勝鬨舉る。次で村上、秋山、馬場何れも續いて敵を屠り、敵將村主ミ本學主將竹田ミの對戦となる。村主は二十七貫の大兵、且つ強剛を以て聞ゆる

者、然し、到底本學竹田の敵でないことは、戦はずして既に萬人の期するところであつた。だが！噫！番狂はせ言つて、これ程の番狂はせがあらうか！竹田の怪力は充分敵を土俵の上に投げつけたが、惜しくも踏み切つて、遺憾なる黒星は、人もあらうに我竹田の上につけられた。

## 第二回戦 早稻田大學——本學

今回の大會三日間を通じて、この一戦ほゞ觀衆に多大の期待を持たせたものはあるまい。



關東を代表する早稻田大學ミ、關西を代表する本學ミが、ここに端なくも勝敗を争ふことになつたのである。然し觀衆の期待は案外なその結果に依つて裏切られた。早軍が弱かつたのではない。本學軍が餘りに強かつたので

ある。即ち先鋒平野惜しくも敗れたのみで、二陣村上以下連戦連勝、遂に四對一で美事この強敵をして聲をひそめしめたのである。

## 第三回戦 長崎高商——本學

前日二回の戦に、漸く各一點を敵に偷したのみで、連勝の意氣昂然裡に、本大會の最終日



優勝せる相撲部及び陸上部選手並委員長(下)大濱に於ける本學應援團(下)

である第三日を迎えた。この日初日以来選手ミ起居を俱にして、鉦舞激勵しつつあつた賀來部長を初め、小泉、岩崎、櫻井各教授、飯田、辰巳兩講師その他校友先輩の顔も多く見え、應援團に加はらない學部及び専門部の學生多數も、棧敷の一部に一團ミなつて盛んに聲援を與へてゐた。

かくて早朝第三回戦の幕は切り落され、本學は遠來の敵長崎高商を迎へて、更に常勝の名をなすに至つた。即ち本學側先鋒平野意氣は充分敵を壓してゐるが、如何せん病後のこころで體力續かず、敗戦の已むなきに至つたが、續く四選手、何れも苦もなく敵を破つて四勝一敗ミなつた。

## 第四回戦 日本大學——本學

この戦に本學先鋒平野、補缺の山口ミ代り、關東の雄日本大學ミ對陣す。戦機愈熟し、應援の聲援益高調に達した時、初陣の山口一舉に敵を破つたのを初めとし、續く我軍何れも敵を敗戦せしめて、結局五對零で本學側全勝した。この回に於ける本學軍の得點十七點、群雄を抜いて正に第一位ミなる。必勝の氣は選手及び應援團の上に益々濃く漲つた。

## 第五回戦 名古屋高工——本學

優勝の榮譽が決定的に我軍に歸するか否かは一に歸してこの一戦にある。それだけ選手も應援團も極度の緊張振りを示して、中京の強敵名古屋高工ミ相對した。先鋒山口再び敵を屠つて凱歌先づ本學側に舉る。然し續く村上、秋山相次で破れ、馬場、竹田共に勝つて本學側三勝二敗。かくて總點二十點を得たが、僚雄大阪齒科醫專も亦前日來連戦連勝して、本學ミ同點に達し、ここに兩軍最後の輪贏を競ふ決勝戦に相見えなければならぬことミなつた。

## 優勝戦 大阪齒科醫專——本學

最後の一戦！これこそ眞に最後の一戦である！應援團のリーダーは交立つて、血を吐くやうな激勵の辭を述べる。岩崎教授、辰巳講師亦熱辯を振つて應援團に檄する。數百の團

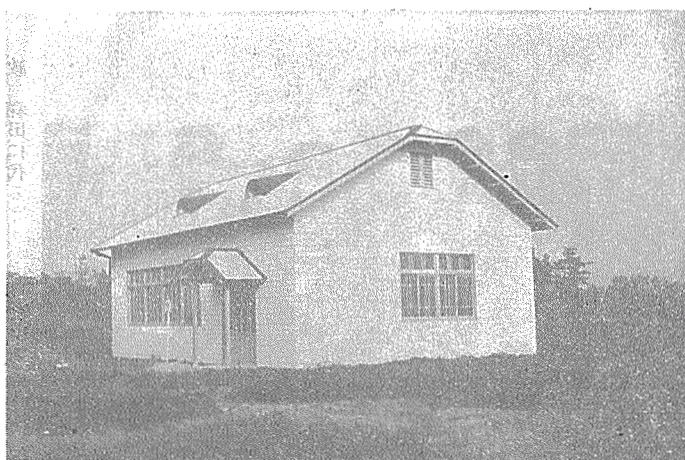
員今はその最後の血潮の一滴までも、愛校の意氣さして燃焼せしむるか許りに緊張する敵も亦恐らく思ひは同じであらう。矢來の外から送るブラス・バンドの音に和して、應援團は必死の聲援を自校選手の上に與へてゐる。かくして兩軍應援團は勿論、數萬の觀衆悉く手に汗握る緊張裡に戦端は開かれた。

敗れた！勝つた！又敗れた！勝つた！又勝つた！何と云ふ息の詰るやうな接戦だつたらう然し結局我軍が勝つた。そして優勝した。先鋒山口敗れ、二陣村上勝つてこれに酬ひ、中堅秋山敗れて副將馬場が土俵に表れる頃、全關西大學のスピリットは悉く凝つて、選手の手四肢に、血に、肉に注がれてゐるただらう。馬場美事に敵を倒して、二勝二敗裡に大將竹田と敵將石堂の一騎打が演じられた。敵も流石に全勝を誇る強軍の首將、而もこの一戦は以て最後の榮冠が彼我何れの上に置かれるやを決すべき、所謂文字通り天下分目の決戦であるだけに、闘ふ者は勿論、後援する者も、觀る者も、血のにじみ出るやうな緊張に、暫しは満場寂として聲さへ出でぬ。然し結局竹田の敵ではなかつた。餘りに苦もなく敵を破つた。かくて本學は今や決定的に最後の勝利を把握した。全關西大學の狂喜亂舞裡に、應援團の聲高き関の中に、數萬の觀衆の動搖めきの間に、全國に覇者たるの地位は、確實に本學のものとなつた。

不運中途に惜敗して、當然本學が得らるる筈の横綱を他校に委したことの残り惜しさ、何人の心にも感じられた。

### 應援團の榮譽

土俵の上の勝を決する條件としては、勿論選手自身の力倆、奮闘努力が先づ第一に數へられなければならぬ。然しながら、選手の手背後に



後成せる本學相撲道場(學内報記事参照)

後に力強き應援團があるかないかが、次いで重要な勝敗の因を爲すものであることは、何人も否認せぬ事實である。この意味に於て、本學選手の優勝、應援團が主催者から表彰されたことは、實に當然の一致言はなければならぬ。應援團なくして選手のみ勝つことは困難である。又應援團のみが表彰されて

選手の間何等か一致を缺く間隙の存することには想到せざるを得ぬ。兎もあれ、本學應援團が終始一貫、型に死せず、血氣に亂れず、正堂堂たる態度を失はず、而も各瞬間常に選手と血を共に湧かせ、情を均しく激して、遂に選手をして覇權を握らせたことは、本學の歴史に於て、否な全國學生運動界に於て、貴い記録を残したものであると言ふも過言ではあるまい。この意味に於て、吾人は先づ八澤團長以下應援團幹部の統率の宜しきを得たことを讃へたい。同時に應援團全員の自律的態度と團結力の強さ、更にその底を流れる愛校心の濃度を喜び、最後にこれ等の點を充分に察知せられた主催者の識見に敬意を表するものである。

### 相撲部祝勝提灯行列

去る十一月十一日午後、千里山學舎に於て、大毎主催第六回全國學生相撲大會に優勝した本學相撲部の優勝祝賀式を舉行したことは別項所報の通りであるが、同夜更に千里山、福島兩學舎の全部を合せた三千餘の學生に依り、盛大なる祝勝提灯行列が催された。即ち同夕六時、全員福島學舎學庭に集合の上、萬歲聲裡に同所を出發、長蛇の如き灯の流れは先づ堂島中通の大阪毎日新聞社を訪ひ、同社及び本學並に本學相撲部の萬歲を繰返し絶叫し、渡邊橋から中之島を経て北濱二丁目に到り、道を堺筋に取つて、終始學生歌或は應援歌を高唱しながら、又所所で萬歲を連呼しながら、同筋を南下し、長堀橋から右折して心齋橋に至つて、最後の萬歲に氣勢を擧げて午後九時盛況裡に解散した。

### 一特志家の祝詞

這般の相撲部優勝に就き、本學校友その他の關係者諸氏から、種種喜びの辭を寄せられることの多かつたのは言ふまでもないが、尙ほ全然本學とは關係のない人々から、好意ある讃辭を與へられることも少くない。左にその一部を紹介する書信の如きも、本學とは直接何の縁故もないが、然し事毎に本學に對して深甚なる好意を有せられる一特志家が、本學宮島事務理事に寄せられたものである。

(前略) 今回全國學生相撲大會で見事貴大學の優勝に歸したことを、何よりもめでたいことと存じます。何しろ満天下の人氣を集めただけに、さぞ盛大ですばらしいものだったでございませう。

私はお世辭ではない、貴大學に對して、母校以上の親みを感じてゐます。その貴大學の今度の捷ですもの、感激せずには居られません。特に今回の勝利に、私は深大な意義を感じてゐます。古くから存在してゐたことは云へ、失禮ながら露骨に言へば、從來餘り世に重きなしてゐなかつた關大、そしてここ數年間に漸く擡頭して來た、謂はば新進の大學である關大が、その關大が全國に覇を唱へたことを誠に痛快に思ひます。

今度の勝利は赤裸裸の勝利であります。この赤裸裸に意義はありますまいか。赤裸裸には權勢もいらず、財力もいらず、歴史もいらず、傳統もいらず、名目もありません。赤裸裸と赤裸裸との戦に勝つたことに意義はありますまいか。

關大は將來赤裸裸の威力を以て進みたいものです。傳統を重んじ、名目に偏する我國の偏狹な國民的性格は、赤裸裸の威力に依つてのみ改造され得るでせう。赤裸裸の威力は絕對であると存じます。私の愛する關大はこの絕對の威力を養つて貰ひたいものです。學問の獨立なり權威なりは、この威力が築くばかりでせう。

私は知體兩育一元の理想を實現するのは、六ヶ敷いかも知れぬと思ひますが、少くとも知體兩育の並行はなし得られると信じます。この體育の赤裸裸主義を知育にも向け行はれんことを望みます。くだらぬ蕪辭を弄して祝詞に代へます。頓首

千里山野球部報

同志社を敗る 三校聯盟リーグ戦の同志社大學對本學野球戦は昨秋十一月十一日午後三時から寢屋川球場に於いて、球審岡田、壘審島津兩氏の下に本學先攻にて開始、四對二で本學の勝ちとなつた。

|    |    |   |    |    |    |   |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |
|----|----|---|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|
| 大川 | 金  | 森 | 近  | 玉  | 高  | 尾 | 横  | 林  |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |
| SS | RF | P | 1B | 2B | LF | C | CF | 3B | 失策 | 盗塁 | 三死 | 安打 | 打數 | 三 | 五 | 四 | 一 | 二 | 三 |
| 三  | 五  | 四 | 一  | 二  | 三  | 三 | 三  | 二  |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|
| 田倉 | 川 | 田 | 原 | 田 | 根 | 本 |   |   |   |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |
| 志  | 寺 | 家 | 長 | 高 | 松 | 佐 | 久 | 山 | 山 | 失策 | 盗塁 | 三死 | 安打 | 打數 | 三 | 四 | 六 | 一 | 七 |
| 二  | 七 | 五 | 一 | 七 | 六 | 一 | 三 | 四 |   |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |

リーグ戦に優勝す

超えて十七日午後三時から寶塚球場に於いて本學對關西學院の野球戦が舉行せられた。球審高田、壘審家倉兩氏、本學先攻、本學側打撃頗る振ひ最初から敵を壓しつゝ遂に八點を得、關西學院亦奮闘したが及ばず八對六のスコアで本學の勝利となり、かくて本學は關西學院に二勝一敗の成績で積怨を晴らし、リーグ戦に優勝の光榮を擔ふた。

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|
| 田北 | 津 | 積 | 田 | 輪 | 田 | 山 |   |   |   |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |
| 學  | 岡 | 今 | 島 | 將 | 沼 | 三 | 倉 | 景 | 辻 | 失策 | 盗塁 | 三死 | 安打 | 打數 | 三 | 五 | 七 | 七 | 三 |
| 二  | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |   |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |

|      |    |    |      |    |    |   |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |
|------|----|----|------|----|----|---|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|---|---|---|
| 大川   | 村  | 川  | 藤    | 金  | 政  | 川 | 阪  | 好  | 澤  | 田    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |
| SS.C | 2B | 1B | RF.P | SS | LF | C | RF | CF | 3B | P.RF | SS | 失策 | 盗塁 | 三死 | 安打 | 打數 | 三 | 四 | 二 |
| 二    | 五  | 三  | 一    | 二  | 二  | 五 | 三  | 五  |    |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |

二壘打川村、尾阪、島津、倉田  
▲併殺倉田、島津(四回目より學院三輪、今北に代る、關大森田、金政に代り、九回目金政森田に代る)



優勝せる本學野球部選手並委員

大毎軍と戦ふ 同月十三日關西實業團の覇者大阪毎日新聞野球團と寶塚球場に戦ふ、球審堀、壘審鈴木兩氏の下に大毎先攻にて午後

二時三十分から開始、大毎井川のスフトミ本學金政のカウミが興味ある對照をなして試合は終始緊張裡に進んで行つたが結局十對四で本學側敗れた。

|   |    |     |    |    |    |    |    |   |   |    |    |   |   |    |    |    |    |    |    |
|---|----|-----|----|----|----|----|----|---|---|----|----|---|---|----|----|----|----|----|----|
| 大 | CF | CCF | 2B | 1B | RF | CF | 1B | P | C | SS | 3B | P | C | LF | SS | RF | 失策 | 盗塁 | 三死 |
| 三 | 九  | 二   | 一  | 四  | 四  | 三  | 五  |   |   |    |    |   |   |    |    |    |    |    |    |

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|
| 村田 | 藤 | 川 | 政 | 好 | 澤 | 阪 |   |   |   |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |
| 大  | 川 | 森 | 近 | 玉 | 金 | 高 | 横 | 尾 | 林 | 失策 | 盗塁 | 三死 | 安打 | 打數 | 三 | 七 | 一 | 一 | 七 |
| 二  | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |   |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |

高松遠征 同月三十日高松へ遠征した野球部は午前十一時二十分から高松中學と高松市外屋島グラウンドに於いて戦つたが七對零で本學側大勝した。

|   |    |    |   |    |    |   |    |    |    |   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |
|---|----|----|---|----|----|---|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|---|---|---|
| 關 | SS | LF | P | 1B | 2B | P | LF | RF | CF | C | LF | 失策 | 盗塁 | 三死 | 安打 | 打數 | 三 | 七 | 一 |
| 三 | 七  | 一  | 一 | 一  | 一  | 一 | 一  | 一  | 一  | 一 |    |    |    |    |    |    |   |   |   |

ア式蹴球部優勝

關西學院に勝つ 關西専門學校ア式蹴球聯盟主催大阪朝日新聞社後援の第二回優勝盃爭奪リーグ戦の第二日目、昨秋十一月二十五日本學ア式蹴球部は對關西學院との試合を午後二時五分から寶塚球場に於いて行つた。同學院は三年越しに七試合を行ひ同學院が唯一回勝つたのみで、無勝負六回云ふ歴史的興味ある試合である。主審深山氏、關西學院のキックオフで開始し、本學側常に敵を壓しつゝ一進一退、前半戦には双方點を成さなかつたが後半戦に至つて本學側遂に一點を入れ一對零で本學の勝利に歸した。

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 學田 | 田 | 水 | 隅 | 田 | 井 | 中 | 殿 | 井 | 田 | 邊 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 關  | 内 | 澤 | 清 | 大 | 高 | 荒 | 山 | 眞 | 笠 | 森 | 渡 | 蹴 | 蹴 | 蹴 | 蹴 | 蹴 | 蹴 | 蹴 | 蹴 |
| 12 | 1 | 5 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

|      |      |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
|------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|
| L.W. | L.I. | CF | RI | RW | LH | CH | RH | LF | RF | G |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 大    | 田    | 磨  | 宅  | 井  | 田  | 保  | 縣  | 浦  | 井  | 本 | 本 | 門 | 自 | 隔 |  |  |  |  |  |
| 23   | 1    | 2  |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |

遂に優勝 同リーグ戦第三日目として翌二十六日午後二時から寶塚球場に於いて、神戸高商對本學の試合が開始された。主審深山氏、本學先蹴、初め敵に一點を奪はれて壓迫され氣味であつたが、漸次回復して前半戦の終りに一點を奪還して同點となり混戦裡に後半戦に入つた。本學向も活躍を續けて點をなし高商軍掉尾の奮闘も甲斐なく四對一で本學の勝利に歸した。

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 高  | 商 | 橋 | 賀 | 岡 | 谷 | 中 | 上 | 村 | 田 | 野 | 村 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 13 | 5 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|
| LW | LI | CF | RI | RW | LH | CH | RH | LF | RF | G |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 大  | 田  | 磨  | 宅  | 井  | 田  | 保  | 縣  | 浦  | 井  | 本 | 本 | 門 | 自 | 隔 |  |  |  |  |  |
| 16 | 3  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |

かくて本リーグ戦は本學二戰二勝、關西學院一勝一敗、神戸高商二戰二敗の成績で本學の優勝に歸し、大阪朝日新聞社寄贈の優勝盃及び阪急寄贈のペナントを受け揚揚々凱旋した。

千里山陸上部報

日本選手權大會 兼第一回明治神宮競技會大阪豫選會が昨秋十月十八、十九兩日に互つて築港市立運動場に於いて催されたが、陸上部は同會に出場して次の如き成績を挙げた。決勝入賞者 百米一着福田義美君、二百米一着福田義美君、八百米一着岸源左衛門君、四百着松葉德三郎君、千五百米一着岸源左衛門君、

八百米リレー―一着藤井、丸谷、山田、花谷の四君、鐵彈投―二等中澤四郎君、圓盤投―三等中澤四郎君、ハムマー―二等中尾好太郎君、走高跳―三等上田保孝君、ロー・ハードル―二等金田格君、ハイ・ハードル―三等金田格君

**四大選手歡迎競技大會出場** その成績は次の如くであつた。

二百米―一着シオルツ氏、二着福田君、ハイ・ハードル―三等金田君、ハイ・ジャムプ―一等スベロー氏、二等上田君、織田君、四百米リレー―二着藤井、金田、上田、福田の四君、千六百米リレー―二着福田、松葉、金田、岸の四君

**大日本オリムピック大會** 去る十一月六、七、八の三日間東京明治神宮競技場に於いて開かれた同會に陸上部は選手を派遣して次の如き成績を挙げた。

百米―四着福田君、二百米―五着福田君、八百米―一着岸君、ハムマー―三等中尾君、四等木村君、五等中澤君、鐵彈投―四等中澤君、走幅跳―六等花谷君、ホ・ス・ジャムプ―六等金田君、ハイ・ハードル―三等金田君、八百米リレー―二着丸谷、金田、藤井、花谷諸君

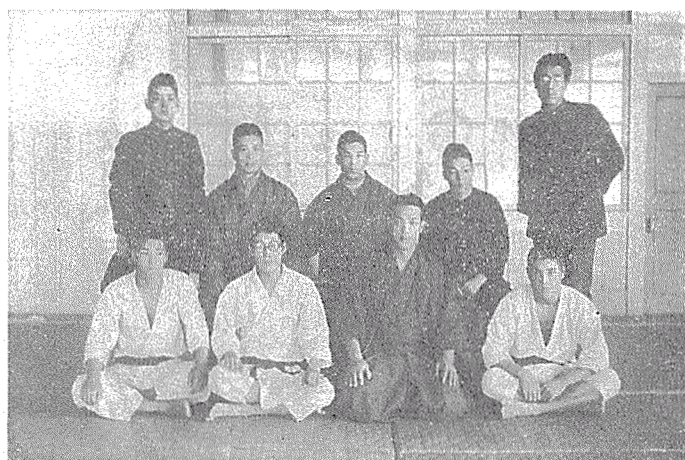
**箕面清遊** 同月二十四日本年度最後の懇親會として部員一同箕面に一日の清遊を試み歡を盡して散會した。因みに從來同部マネジャーとして獻身的に努力して來た野原、竹割兩君は此の度都合で辭職することになったので部員は何れも兩君過去の功勞を思ひ殘惜しく思つてゐる。尙部員本村繁君は昨冬篠山聯隊に入營した。

**大阪高商主催陸上競技大會** 本部も出場左の成績を示した。

百米―一着山田君、千五百米―一着岸君、圓盤投―三等高野君、鐵彈投―二等中澤君、千六百米リレー―一着福田、松葉、金田、岸諸君

### 千里山柔道部の師範招聘

千里山柔道部では、今回、かねてより同部に對し少からぬ厚意を有せられる磯島竹之助氏を招聘して師範三仰ぐことになった。同氏は現に四段の腕前で大阪に於ける柔道界に重き千里山柔道部選手並委員（前列向つて右より二人目磯島師範）



をなしてゐる人物であるが、仄聞するところによると依るに近頃五段に昇格することになつてゐることである。

### 福島學友會新任幹事

去る九月行つた福島學友會各科一年の幹事選舉並に經濟科二年の補缺選舉の結果當選した諸君並びにその部屬は次の通りである。

### 文藝部

經濟科二年山口敬一君、法律科一年眞鍋靜雄君、商科一年森田正芳君、經濟科一年北川猪四郎君、文學科一年草野喜三男君

### 運動部

法律科一年庄司文六君、經濟科一年渡部幸一君、商科一年瀧石彦馬君、文學科一年會我秀二郎君

尙同學友會幹事長綾木茂太郎君辭職につき次の通り夫夫改めて就任した。

福島學友會幹事長 商科三年 古郡恒雄君  
同 總務 同 桐野準平君

### 文藝部主催全國學生雄辯大會

千里山、福島、兩文藝部主催、時事新報後援の下に恒例の全國各大學專門學校學生雄辯大會は去る十一月二十三日、中之島中央公會堂に於いて開かれた。折からの祭日に晝夜とも空席を餘さず頗る盛會であつた。閉會後一同記念の撮影をしたがその時特に出席して居た宮島事務理事は他校辯士に對して一場の挨拶を試み、更に席を變へて温い慰勞の宴を張つた。當日のプログラムは次の通りであつた。

### 畫之部

一、開會之辭 幹 事 岡田利雄君  
一、欺網の中にうめける社會相 學 上 村 靜 馬君

一、限りなき光明を見つめて 曹洞宗大學 上野興宗君  
一、惡魔と共に 第六高等 守屋典郎君

一、一人ある時に強し 大阪外語 山口長司君  
一、有色人種の總動員 明大豫科 浪花作治君

一、見えざる握手 廣島高師 小林正作君

### 一、現世を見つめて

智山大學 山本賢照君  
一、未 定 大阪藥專 平田俊一君

一、國際教育の民衆化 立命豫科 溝端 處君  
一、食料問題と燃料問題の解決 東洋大學 高橋 勝君

一、屍の法律を抱きて 京都帝大 大阪谷公雄君  
一、司會者挨拶 幹 事 山崎敬義君

一、伸びつつある心 青山學院 鶴田寅二郎君  
一、曉鐘？弔鐘？ 本 學 三宅萬吉君

一、人は憐む 日本齒醫 岡田太衛助君  
一、後援の主旨 時事新報 小田切平和氏

一、現實の肯定に就て 佛教專門 藤野大俊君  
一、人類共存の眞髓 山口高商 納富恒靈君

一、光明の彼方へ 名古屋高商 川口悦郎君  
一、怒濤の下の眞の流れ 慶應大學 吉田義秋君

一、未 定 本 學 中山寅藏君  
一、開會之辭 幹 事 鈴木良助君

### 夜之部

一、開會之辭 幹 事 西政一君  
一、思想の眞相と對米及對露問題 本 學 酒井實雄君

一、十字街路に立ちて 立命館大學 渡邊喜四郎君  
一、金と女と權勢 眞言宗大學 豐田芳照君

一、揆 抄 幹 事 長 古郡恒雄君  
一、滅び行く資本主義 日本大學 上條 貫君

一、三尺の秋水と國民は踊る 大阪高商 山崎喜一君  
一、經濟的國境撤廢の必要 事修大學 島津芳弘君

一、未定 本學米田浩三君  
一、人類上より見たる吾人の使命  
京都藥專 加藤正一君

一、未定 中央大學 推熊三郎君  
一、資本階級より見たる労働の目的とは  
立教大學 徳永多二夫君

一、社會的生活への願望  
關西學院 谷水一磨君  
一、司會者挨拶  
文藝部長 岡本勇君

一、誤れる覺醒の道程  
大阪齒專 諏訪健君  
一、未定 大谷大學 特野體山君

一、兩院果して平等か  
本學 赤木元市君  
一、奪はれたる群  
龍谷大學 中山正盛君

一、婦人は裝飾品なり？  
明治大學 木村武勇君  
一、本能の交渉より理想の交渉へ  
同志社大學 永澤喜巳男君

一、未定 松江高等 小瀧彬君  
一、政權爭奪と階級的分野  
早稻田大學 橋本登美三郎君

一、所感  
辯論部長 杉山志敏君  
一、未定 神戸高商 芝孝清君

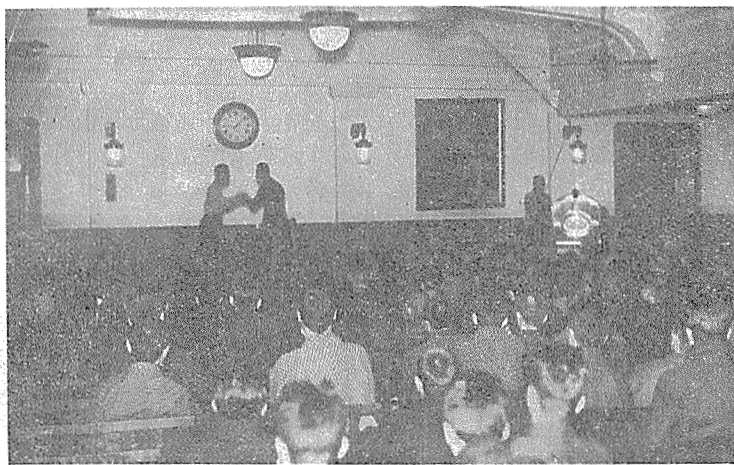
一、閉會之辭  
幹事 松井慶次郎君  
福島辯論部報

第一回擬國會 去る十二月十三日夜六時か  
ら天王寺公會堂に於いて同部主催の擬國會を  
開いた。内閣諸大臣その他は多く三年の諸君  
これに當り二年は反對黨、一年は與黨として  
各活氣ある未來の大臣振り、代議士振りを發  
揮した。

辯士派遣その後同部は次の通り各地へ辯士  
を派遣した。  
京都府立醫科大學(法三) 奏秋生君、京都同  
志社大學(經三) 杉山志敏君、神戸高等商業  
學校(商二) 香西政一君

### 國際聯盟協會大阪支部 主催平和記念大會と同 協會本學學生支部

昨年十一月十四日市内中之島大阪中央公會堂  
に於て、國際聯盟協會大阪支部主催の下に開



大每樓上に於ける語學大會の光景(上)と同記  
念撮影(下)

催せられた平和記念大會に際し、同協會本學學  
生支部は同事業に協力し、特に市内各大學專  
門學校代表學生に依る各國語演說に就ては、  
辯士の選囑、國語の割當等に關し盡力するこ  
ろがあつた。尙ほ右大會には、本學學生代  
表として、商學部第三學年加藤金次郎君が出

演し、“Pour la Paix”なる題下に佛語の演  
說を試みた。

### 關西學生英語聯盟第一回大會

昨秋設立せられた關西學生英語聯盟第一回英  
語雄辯大會は、去る十一月二十二日神戸高等  
商業學校に於て午後五時から開かれた。開會  
前ディナー・パーティーがあつて、本學からは  
岩岸、四辻、武田、竹林の四君出席し、岩岸君



は本學英語會を代表して一場の挨拶をなし、  
他の三君は夫々得意のテーブル・スピーチを  
以て満場の喝采を博した。尙右雄辯大會に本  
學からの出演者の氏名及び演題は次の通りで  
ある。

### 本學主催語學大會

1. What is Real Awakening?  
Mr. K. Takeda
1. My Desire for Citizens of Kobe  
Mr. A. Yotsuji

本學年中行事の一である外國語劇英語演說  
この大會は、這般文部大臣の通達によつて  
學生の演劇が禁止されたので、止むを得ず佛  
獨語の演說を他を加へ語學大會として、去  
る十一月二十五日大阪毎日新聞社樓上に於い  
て英文毎日後援の下に開かれた。開會の午後  
六時に先立つ三十分既に場内は滿員の盛況で  
本學松田講師は英語で開會の辭を述べ以下プ  
ログラムを追ふた。加藤英文毎日副主筆は豊  
富な語彙と巧な語法を以て學生の語學練習を  
奨勵し、宮島教授は佛語で外國語の實習と世  
界平和の關係を述べて挨拶をなし、加藤君の  
佛語のレシテーション、柴田、森井兩君の對  
話等奇拔なデユステアに聴衆を喜ばせた  
殊に時時挿まれた音樂部の演奏、蓄音器の學  
歌演奏など一層興を添え、非常な盛會裡に九  
時半、櫻井教授の閉會の辭によつて散會した  
が、右大會につき特別の御援助に預つた大阪  
毎日新聞に厚く感謝の意を表する次第である  
プログラムは次の通りであつた。

### PROGRAMME

#### PART I

1. Kansai University Song
2. Music, Gioie della Vita (Valz)  
C. Graziani-Walter, op. 140  
By Kansai University Plectrum Society
3. Opening Address: By Mr. K. Matsuda  
大學豫科助教授 松田一
4. Address, The Public Spirit: By Mr.  
T. Yamaguchi 大學豫科第二學年 山口辰雄

5. Recitation poétique, *Un bon gîte* (P. Déroulède)  
Par Mr. H. Kita 大學豫科第一學年 喜多利次
6. Address, *Man is Lord of the Creation*  
By Mr. Z. Takebayashi  
專門部豫科第三學年 竹林密二郎
7. Rede, *Japan und Deutschland*  
Von Herrn H. Yamake  
法學部第一學年 山池 浩
8. Recitation, *The Story of a Fisherman*  
By Mr. K. Abe  
專門部法律學科第一學年 阿部 要

#### PART II

1. Music, *Bella Italia* (Valz) . G. Bellenghi  
By Kansai University Plectum Society  
關西大學音樂部
2. Discours de bienvenue  
Par M. le Professeur T. Miyajima  
教授 宮島綱男
3. Address, *My Hope for English Students*  
By Mr. M. Nozaki  
大學豫科第三學年 野崎正雄
4. Recitation dramatique, *La femme et son Ombre*  
(P. Claudel) . Par M. K. Kato  
商學部第三學年 加藤金次郎
5. Address, *The Value of the Diploma*  
By Mr. K. Takeda  
專門部商業學科第二學年 武田熊太郎
6. Address . By Mr. N. Kato, Assistant editor  
in chief of the English Mainichi  
英文大阪毎日副主筆 加藤直士
7. Dialogue comique, *Deux camarades de collège* (E. Labiche) . Par M. M. R. Shibata  
商學部第二學年 柴田大輔  
S. Morii 大學豫科第一學年 森井崇吉
8. Music, *Scènes de Ballet* . G. Goldberg  
By Kansai University Plectum Society  
關西大學音樂部
- a) Le cortège (Maestoso)  
b) Les marquisans (Pavane)  
c) Les courtisanes (Valse)  
d) Les pierrettes (Sérénade)  
e) Les gladiateurs (Marche)
9. Closing Remarks . By Prof. M. Sakurai  
大學豫科教授 櫻井 匡

#### 英語學内雄辯大會

英語會では學内英語雄辯大會を十二月三日

(水曜日)開催した。去る十一月二十五日夜大阪毎日新聞社樓上に於て開催された本學公開語學大會に刺激されてか。出演辯士は無感二十餘名に及び、聴衆も熱心であつて英語雄辯練習の氣運が勃興したかの様に感ぜられた。従つて多くの優秀なスピーカーを見出し得たのは同會の爲喜ばしい。

同會幹事中西司會者となり簡單な開會の辭を述べた。松田講師は Award for Sportsmen なる題下に、櫻井教授は Military Education in the School なる題下に、又た佐佐講師は Method of Making Offhand Speech なる題下に何れも有益な模範演説をした。幹事岩岸君は同會が學外に於て最近爲した活動に就て報告する所があり、戸田君の閉會の辭を以て會が終つたのは午後五時であつた。音樂部の諸君は其のマンドリン・オケストラを以て此の會合に光彩を添へた。會が終つてから千里山學内食堂に於て會員の親睦會を開いた。佐佐講師、櫻井教授も列席し、出演者の批評をせられ又種種會員を獎勵した。會員諸君の自己紹介、テーブルスピーチ等あり、日本語を話す事を禁じて極めて英語會らしい氣分の裡に午後七時散會した。

#### 米國學生よりの來信

コールマン氏を團長とする米國大學生の一團が、觀光兼日米親善促進の爲め今夏我國を訪れ、本學教授學生有志が一行三大阪朝日新聞社の一室に會して意見の交換を爲した事は當時本誌に報道した所であるが、最近一行中のスタンフォード大學のビールフェルト君より本學戸田君宛て來信があつた。其の一部を左に抄録する。

Stanford University, November 11, 1924.  
Dear Mr. Toda,

.....Since returning I have been called upon to speak before several student organizations concerning my impressions of Japan. I have tride in these talks to give my hearers a sympathetic understanding of your country and its problems, so far as I myself can understand them. I am now studying Japanese foreign relations and Japanese government under Prof. Ichibashi of this university. ....

Since my visit to your country, I am more than ever devoted to my ideal of working in the cause of human brotherhood. I think we, Japanese, Americans, and all the other peoples of the world, must learn to live in harmony with each other or else surrender to utter chaos. I hope the friendly personal contacts we made with your people will remain unbroken, whatever may be the relations between our governments.

I hope I may place myself alongside of those who, in America and elsewhere (I hope in Japan) are fearlessly placing their loyalty to humanity above even patriotism, if the two conflict. I want to be a citizen of the world, and not merely of America.

.....There is to be a conference of about six hundred Christian students from the universities and colleges of western United States, Mexico, Canada, and the Hawaiian Islands in California this Christmas vacation, and Mr. Coleman, who was the leader of our party, is to preside over a section of the conference which will consider the question of racial relationships of the Pacific Ocean. I hope to be able

to attend the conference. ....  
"Synona" Talbot Bielefeldt.

#### 千里山明星會送別宴

同會では創立以來種種盡力し來つた加藤金次郎君が今春卒業するので、同君の送別宴を去る十一月二十二日四ツ橋畔春日野に於いて開いた。因に今回改選の結果次の諸君が夫夫就任した。

一會長＝松原政次郎君、一幹事＝小堀國太郎君、平野樹一君、齊藤漢君、森井惣吉君

#### 千里山雄辯同好會設立

今回野原、清水、鍛下、服部、太田、辰巳外數氏の發起により千里山雄辯同好會が設立せられて、その發會式が去る十一月四日午後一時から第九教室に於いて舉げられた。學歌合唱、會員自己紹介の後茶菓をとりつつ氣焔を舉げ薄暮學生歌合唱裡に散會した。因に同會の幹部は次の通りである。

幹事＝野原、清水、服部、太田、土居の五君  
會計＝辰巳、田中の二君

#### 千里山學内辯論大會

千里山文藝部主催の下に去る十一月二十一日午後一時より同學舍内第九教室に於て第三回學内雄辯大會が開催せられた。當日は左記學生の雄辯があつた外宮島事務理事及岩島教授の講演あり午後四時半閉會、それより辯士及委員一同の茶話會を開いた。プログラム次の通り。

一、開會之辭(山崎教義)一、社會は進歩す(原田清君)一、青年の叫び(太田收君)一、難波大助を論じて國教に及ぶ(辰巳孝治君)一、極東の風雲

(清水政秀君)一、社會生活の一瞥(八澤與内君)  
一、右傾か左傾か(坪田吾一君)、ヒント(平尾修三君)一、大學と給料(松本清重君)一、人口問題對策として墮胎の加罰的價值を論ず(山崎教義君)一、閉會之辭(鈴木良助君)

尙十二月六日にも午後五時から茨木學校講堂に於いて同部主催、茨木町青年團後援で學生雄辯大會を開き左の演説があつた。

一、開會之辭 司會者天川龍男君、一現代教育界の疲弊(長巳孝治君)一、痴人の叫び(古増義夫君)一、七月一日を回顧して(中野昇一君)一、學窓に映れる現代社會生活(八澤俱好君)一、暗雲低迷し風雨將に起る極東の天地(飯下益治君)一、農村青年に與ふ(清水政秀君)一、裁判の民衆化(吉野爲四郎)一、新日本主義樹立と其の國際關係(芝原朝之君)一、未定(小林太三郎君)一、我國體と大和民族(小泉教授)一、閉會之辭(東清一君)

千里山音樂部試演

同部では去る十一月十一日午後七時から千里山住宅居住の有志よりなる千里山會の招聘に應じ、千里山會館に於いて、試演會を催ふしたが頗る盛會であつた。尙當夜千里山に在住の服部嘉香教授は出席一場の挨拶を試みた。

千里山獨法科懇親會

千里山獨法科第三學年の學生十二名は岡田利雄、山崎敬義兩君の發起により去る十二月四日午後五時より大阪市東區清水町「きたむら」に於て懇親會を催した。當日武田講師は急用のため缺席せられたが非常な盛會で日頃の權利義務も忘れて歡談に花を咲かせ、千里山獨法科萬歳を唱へて午後九時散會した。

千里山短歌會十一月例會詠草

この胸はありまにあやし友ごちの噂をよそに煙草吹くには。 加藤まさる

教會の鐘にあ、日曜かと思へり久病みしとある朝 小嶋ひろし

よるこびは人のものさびしさはわがひこりも 田中基次

つかなしきたから。 加藤金次郎

チクリと針さすごとく神經のふさ驚きぬ結する見 高 原 草 路

似てさみし舞妓は。 眞 木 新

鴉なく一本の松に鴉なく冬のまひるの風吹く小山 眞 木 新

黄昏るる淺茅ヶ原の薄の穂白く踏み分け鹿蹄りゆ (奈良にて) 眞 木 新

即 咏 (題選音二) 喜多はつじ

のびれにふと目醒むればわが病を看病るる母は 高 原 草 路

枕邊にありき。 おちこちに灯かけもみえず誰と彼のしのびれきこ

ゆ木枯の夜半。 低き歌ビアノかすかにひびき來ぬ君が門邊を我は去りゆく。 清水 克 巳

熱に病む夜更けの床に遠き邊の三味の音聞ゆ雨にまじりて。 森 睦 孝 夫

やれ塀の内は見えぬ鉦の音にかしく偲ぶ彌陀の御姿。 牧 山 鐵 平

せせらぎの底にしみ入る夜の雪や温泉の町の夜を深みつゝ。 眞 木 新

灯びの夜霧ににじむ川岸ゆ爪びきの音のきれ〜 加藤金次郎

足とめて視ふ家は戸を閉す我が居る事を知りしものかな 上 木 樂 羊

消えてゆく鐘の聲音のごと我が思ひふるへながらも君をめぐれる。 眞 木 新

弔 歌 高 原 草 路

一若くして逝ける僚友稻垣君を偲びて一

本學學生代表者南支旅行

今回外務省が對支文化事業の一として各學校の冬期休暇を利用し、大學學生二十名の旅行團體を作り南支地方に派遣するについて、本學では文部省の通達により、法學部法律學科二年牧山儀平君を参加させた。

千里山山陰同人會

此の度、島根、鳥取兩縣出身者を打つて一丸とした同會が千里山に設立せられ、去る十一月二十九日午後一時半から千里山學内食堂に於いて第一回總會を開いた。(八澤幹事報)

千里山德島縣人會

現在千里山學舎に在學してゐる學生諸君の中德島縣出身の諸君相集り今回同會を設立した。過般第一回打合せ會を開いたが同會役員は、森口淳一、脇房助、桑原敦二郎、露口長一の諸君である。

向上部上京委員經過報告

十四日全國私立大學專門部學生聯盟主催大演說會(日本大學に於て開催)に臨み又各大學女子學生聯盟主催大講演會に出演した。十四日午後聯盟委員會が開催された。其の決議

事項の概要を記載する次の通りである。  
一、請願文及請願理由書の作成  
右請願書には左記二項を記載すること。  
(一)特科學生に對し卒業時に於て正科學生と同等以上の資格を附與する事  
(二)專門部卒業生に對し中等教員たるべき資格を附與する事

二、請願文提出に關する具體的方法  
三、請願當日に於ける示威運動方法  
及請願に關する各大學費用分擔方法を定め七大學合して總計一萬二千名の請願を提出當日迄に各大學に於て取纏め調印せしめたる上。有力代議士を通じて第五十帝國議會に請願する事に確定した。而して第一項は關西大學に一任する事となり有力代議士との交渉並に政黨訪問等は東西相呼應し協力して之に當る事に決定したのである。更に翌十五日には文部省に栗屋專門學務局長を訪ひ、特科生救済に關して腹藏なき意見を交換したが、約に従つて近く具體的の意見を具し當局に對し本學より献策する事になつてゐる。

普通學務局長は不在の爲め係長に面會したが本學より提出されてゐる申請書に對して目下審議中なる旨の明言を得た。之に依つてみるに或は近く實業教員たるの資格が附與されるかも知れないと思つてゐる。

上京委員は十七日午前九時歸校したので直ちに緊急幹部會を開き委員の報告を聴取したる後既記決定事項に基いて即日在阪代議士及政黨有力者を訪問賛成を求めつゝあり。

因に板野代議士は既に賛成を得吉津代議士井阪代議士も亦賛意を得たので目下廣瀬代議士の了解を得る事に努力して居る。實業同志會は異議なく賛成した。

(鳥山委員記)



支那人雜觀

支那人雜觀

革命以來支那は中華民國となつて居るから民國人の中に支那人と云はれるのを非常に不快に思つて居る者もあるが、使ひ馴れた言葉であるから其儘使用して置いた

校 友 藤 田 少 介

(一)

大正六年以來約八年間住みなれた大連は、私に最も親しみのある土地である。今度、餘儀ない事情の爲めに、此地を去らんとして居る私は、此機に臨み、今迄に得た私の所見なり、感想なりを潜越ながら、將來渡滿せらるる母校校友諸賢の爲めに草したなら、幾分なりとも御参考になりはしまいかと思つて、秃筆を呵して敢て此拙ない一文を草したのである。八年以前の大正六年多くのクラスメートと共に、將來の希望を抱いて母校を巣立つた私は、世話せらるる儘に神戸某大貿易商店に入店する事となり、加ふるに海外に志望を持て居た私の願望通り、間もなく大連支店詰を命ぜられ渡連したのが其年の十月十八日であつた。異郷に來たもののさまで私は生活上に於ける不便や、急に風土の變つた事に對する感じも起らなかつた。只單に、街路が非常に立派なのに、家屋及店舗が全部煉瓦建であつたから、妙に私の目を喜ばした位のものであつて、殆んど植民地に渡つて來た様な氣はしなかつた。此故は如何に日本の租借地さ云へ、矢張り

支那の領土である以上、其住民は大半支那人であつて、幾多の交渉も殆んど支那人との關係となり、支那語の素養全然なき私は、大なる不安を感じて居た豫想は全く裏切られ、所謂支那式なる所少しも目に入らず、市中を歩いてても殆んど日本人ばかりの様氣がしたからである。實際は當時日本人四萬弱支那人二倍強であつたが、彼等は大概一劃を爲して住み又は隣接個所に住んで居たからそれ支吾吾の目に入らなかつた。

(二)

斯様に於て、私は此間通計一年位長春及營口に出張して居た事もあるが、其餘は全部大連に居たのであるから、自然此文も多く大連を中心とした事となる。以下筆のすさびに委せ、極めて率直に、思ひ付いた儘を書いて見ようと思ふ次第である。

商賣上に於て、支那人は、在滿日本人とは、大分着眼點を異にして居る。私が營口に居た當時、私と同じ店に周善堂と云ふ支那人の店員が居た。彼は支那人としては中見識を持つた男であつた(日露戦争當時御用商人として我日本軍の爲めに大いに奔走し大山元帥が其他諸將官にも面接したと云つて、當時の戦況に就て口癖の様に自慢話をして居た)。彼れは常に云つて居た。日本人は商賣をするに思切りが無い。手持商品の相場が上騰し始めると、どこまでも慾心を起して容易に手放ししようとする。又相場の下落を始めた場合に於ても、未練を残して大なる損失を未然に防ぐべき決斷力がない。だから、往往にして收拾すべからざる大失敗を招く事がある。商買は一舉にして多く儲ける必要はない。多量

の(各種の商品と云ふ意味ではない)品物を取扱つて其度合を多くする事が肝要である。それら少し少位の損失はすぐ取返しがつくと思つて居た。成程さうだろう。全部さ云ひ得ないが、大部分日本人は慾が深いので、見切りをつけるさ云ふ事が缺けて居る様である。従つて自然機敏さが無い事になる。此點は大いに支那人に學ばなければならぬ點である。支那人の商賣が上手と云ふのは他にはない、唯此機を見るに敏であるさ云ふ一事である。滿洲殊に大連に於て、支那人より日用品を買ふは、日本人のそれよりはるかに低廉である。此點は吾等日本人の常に異口同音に唱へて居る所である。其理由としては、種種あるだらうが、特に支那人は使用人を雇ふにしても殆んど無給に等しく、且つ生活程度が低い。然るに日本人の生活程度は一般に支那人に比し高いのであるから、勢ひ日本人としては品物を高く賣らなければ立行かない事になる。之れが主たる理由の様である。然しながら、私は此他に即ち見逃すべからざる支那人の巧妙なるやり方による一種の興味をひく點があると思ふ。重に小賣商人に例を採つて云ふに、日本商人は商品其物の利鞘しか算盤玉に入れたない様であるが、支那人は此他包装物迄も考慮に入れて居るのである。だから商品其物の利益が少ないにしても、是等のものにて利潤を補ふ様にして居る。即ち彼等は包装用の袋さか箱さかを別途に利用し、又は賣るのに巧妙なる手段を採つて居る。之等の方法が商品の實値に直接影響して來て居るのだらう。私は思つて居る。此事は商品受渡しの場合にすぐ判る。支那人の包装の喧しいのは日本人

の比ではない、特に麥粉などの袋の切れたのは缺斤あるなしに拘らず容易に受取らないのは以上の理由によるのである。支那人間には殆んど廢物と云ふものがないのである。數年前大連市に編入された小崗子と云ふ支那人部落(日本人も大分住んで居る)には、露天市場と云つて古着や其他多少古道具類はあるが、殆んど廢物のみを以て賣買されて居るさ云つてもよい一劃がある。そこに行つて見れば、如何に支那人間には廢物がなにかさ云ふ事が一見して直ちに判るのである。日本人としては殆んど想像だも及ばない茶碗のかけたのや湯呑の破損したもの迄も陳列してある。そして之等が又夫賣れるさ云ふ事には吾等は聊か一驚を呈せざるを得ないのである(大正七年頃迄は全くの野天市場であつたが、其後一定の區劃を設けて小屋掛となり、現今肅親王家の管理する所となつて居る。當時は空瓶や、茶碗、湯呑のかけたのやを三十個位地面にならべて、一廉の商人を氣取つて居た者もあつた)。如斯き状態であるから、支那人が包装物の如きを容易に有利に處分し得る事には多くの心算を要しないのである。

支那人は貨幣價値の感念が吾等日本人より強い。今はさうでもないが、一時銀塊の高下の甚だしかつた時分には、吾等が馬車夫や、人力車夫に、平常通りの料金を日本通貨を以て支拂ふも、彼等は直ちに不服を云ふ。即ち今日は金が安いから割増を呉れ、吾等は常にこんな目に會つた(支那は銀貨本位であるから日本人が銀が安いさか高いさか云ふに對し反對に彼等は金が安いさか高いさか云ふ)。之はほんの一例を取つた迄であるが、まして

商人は、日本商人以上に貨幣の交換價值(?)に對する觀察眼が一様に高く、彼等の頭腦は鋭敏に異様に働く。けれども、こんなに利に敏い支那人でも、まだ一般に銀行を利用する事は發達して居ない様である。大連あたりではそんな事もないが、足を一度奥地(關東州以北を一様に奥地と總稱して居る)に入れば、此狀態が頗る顯著である。私が長春に居た時分、店の賣掛代金を支那人取引先に時時取立に行つた事がある。所が銀行小切手を利用して居る店は殆んど皆無き云つてもよく、各店悉く多額の金を現金にて呉れたので、頗る奇異の感に打れたのである。尤も、之れを仔細に考察してみれば、彼等が日本人より商品仕入れに際しての代價は金即ち日本通貨である。そして賣捌きに際しての相手方が支那人である以上、賣取るべき代價は支那通貨であるのは論を俟たないのである。茲に於てか彼等は當然買入代金支拂期迄には、(普通日本輸入商品は受渡後三十日拂きなつて居る)、日本通貨に交換して置く必要がある。彼等は、最も有利な時期に日貨に交換し、支拂準備に當てて置くだらう。然しながら假令、其保管の日數が僅か數日であるとしても、何故に銀行を利用しないであらうか。現今は小切手流通の時代である以上、各地に支店出張所を有する日本の銀行をして確實なる、正金銀行か、朝鮮銀行か、又は正隆銀行の支店或は出張所に當座勘定を開き置き一時的にも當座預金として拂込み置けば、現金保管の危険もなく、又代金受授の煩瑣をも避ける事が出来るのである。是を爲さないのは、彼等が銀行の信用なり、且つ利用なりを眞に了解して居ない

からの様に私には考へらるるのである。

### (三)

支那商人は一般に商業道德が進んで居る。彼等の此道德は、少年時代より訓練されて居る様である。前に一寸云つた通り、支那商人が小僧を傭ふにしても給料などは少しも與へない様で、只正月とか其他一定の慰勞日の如きに、少々の小使を與へるに過ぎない想である。そして幾年かの後、一人前の番頭となりて初めて幾らかの給料が與へらるるに至るのであるが、然し之にても日本人に比するに極めて少額であるらしい。此階梯を経て世間の信用もつき、漸くにして獨立し營業を営む様になるのであるが、若しも彼等にして、此道程中に一度不正若くは少くも不正直な事でもすれば、彼等は雇傭主より斷然として解傭され、其主人のみならず他の何れの商店にても再び雇傭して呉れない想で、彼等の社會的生命は殆んど之で終る云つても過言でない云ふ事である。如斯全く過酷に等しい制裁があるから、彼等は容易な事で自己の信用を落す様な馬鹿な眞似は決してしない。斯様にして永い間彼等は正直信用云ふ事をモットーとして教養されたのであるから、支那商人は日本人に比するに貸借關係の如きは極めて堅いので、日本人の如く充分なる支拂能力があつても一日のばし、二日のばし、甚だしきは掛倒すなどの如きブルイ考へを持つてない。支拂期日にはたまに例外があつてもキチキチと呉れる。故に心ある日本商人は日本人と取引するよりは支那人と取引するのが數等安全だ云つて居る。

近來盛んに經濟上に於ける日支提携云ふ事

が唱へられて居る。私は所謂大政治家や大資本家の企劃がこんなであるか知らないが、少なくとも普通商人は、共同出資で、日本人と相提携して商業を営む希望は持つて居る者があるのを見聞して居る。尤も是迄此方法で大分迷惑を蒙つた支那人もあるが、何れにしても滿洲方面の輸入品は大部分日本より其供給を受けて居る。但し彼等の内歐洲品を上海方面の支那人より間接に輸入して居るものもあるが、直接に輸入する事は彼等の容易に爲し能はざる所で、矢張り隣國たる日本より輸入する事が便利で且つ手取り早い、従つて共同して營業を爲す場合には、輸入については日本人の手腕に俟ち、賣捌については彼等の擔任する所となる。蓋し滿洲には數種の通貨がある。先づ日本銀貨等は勿論の事にして、朝鮮銀行券、正金銀行發行にかかる鈔票(普通に通銀と唱へて居るもの)、小洋錢(日本の拾錢貳拾錢銀貨に相當するもの)、大洋錢(現今吾國には流通してないが壹圓の銀貨)、銅字兒(銅錢)奥地に行けば此他奉天票、長春には官帖(前者は東三省官銀號等の發行にかかる小洋錢を基礎とした兌換券、但し現今には不換紙幣同様となつて居る、後者は吉林省の發行にかかる不換紙幣)又營口には特種なものとして過爐銀云つて通貨の如き用を爲して居るものがある。そして之等各種の通貨は悉く日相互に相場が變動して居る。こんな状態であるから、賣捌に付いては必ず以上通貨の相場を考慮に入れなければならない、之れは結局支那人の機敏に俟たなければならない事となる。従つて支那人は日本人を待ち日本人は支那人に依らなければならないのは

理の當然である。故に日本人が誠實以て事に當れば私の茲で云ふ共同事業の如きは容易に爲し得らるると思ふ。但し私は茲で一寸斷つて置くが、以上の如く多様の通貨が流通して居るから、吾等も之等各種の通貨を毎日使用して居る様に思はれるかも知れぬが、決してそうでない、支那人と直接交渉のある特産商か、又は特種の事業に従事して居る商人の外、一般日本人としては、假令支那人より物を買ふに當つても、日本通貨以外に使用する事は殆んどないのである。

茲迄述べ來つた序に私は日本人に對して一言嫌味を云つて置く。或は自分の考へが間違つて居るかも知れないが、此點はよく識者の御教示を俟つことにしよう。又或人は營業の自由に對するいらざるおせつかい云ふかも知れないが、支那人は牌子(Trade mark)を非常に重んずる、故に一度賣り込んだ商標は中中權威を持つて居る。だから新たな商標のものが持込まれても、日本人が此新商標のものに對する賣込みに努力する苦心と同様に彼等も亦之等新來物の賣捌については相當の苦心を要する。従つて彼等は新商標のものに對しては容易に手を出そうとしないのである日本人としては此點に大いに考へ及ぼして置く必要があるだらうと思ふ。なんとなれば、内輪競争の爲めに外國品に此慮をつかれる恐れがあるが爲めである。それだから、一度賣込んだ商標は飽迄之れを尊重し、新商標のものは新販路を開拓するか、又は前者に對する排他的な競争に陥らない程度に於て、賣込みに心懸くべき必要があると思ふ。之やがて日本商品の牢固たる販路の根柢を作り得る所以で

あるからである。綿糸、綿布の如きは殊に然りである。

話は前後するが、茲で私は一寸過爐銀の説明をして置く必要があると思ふ。他の通貨は通貨として立派に流通して居るが、過爐銀は全く其性質を異にして居るからである。過爐銀は營口に限り用ゐられて居る一種特別の金融制度である。通貨の用を爲して通貨ではなく、然かも一般に交換の媒介者となつて居る。

營口は、大連が開ける迄は滿洲の吞吐港として、殷賑を極めた貿易港であつた。私は今其起源は聞かないが、此營口に於ける商人等は銀爐云ふ信用ある店舗について銀貨の鑄造を依頼し、鑄造されたる銀貨は彼等の入用の時迄一時預けられて居た想である。所が年月を経過するに従ひ、銀貨は段段其影をひそめ、取引上の貸借は凡て此銀爐の帳面に記帳して置き、一定の日時に至つて初めて夫夫決済するの制度となつた。抑も過爐銀云はれて居るのは之れが其濫觴である。現今では銀貨(元寶銀と稱されて居る)は全然其影を見ず、貸借は唯一銀爐の帳面に記帳され居るの、且つ決済期(年四回三月、六月、九月、十二月)

永き爲め商人にきりては非常に便利なものなるにより、奥地商人等は之を利用せんが爲め營口に迄商品買出しに娯集して居た相である。此方法による、支那人は時時代金受授の必要なく、且つ決済期迄には奥地特産物を搬出して、前債務に充當し得る利便がある。如斯く銀爐は重要な一種の金融機關となつて居るのであるから、彼等の信用や莫大であつて、重要視せらるるのには敢てあやしむに足らないのである。従つて其信用程度も時時變

動を來たし過爐銀の賣買が行はるるに至つたのは當然云はなければならぬのである。

然るに先年營口第一の銀爐西義順云ふが、圖らずも其内容暴露せられ、營口經濟界に大恐慌を來たし、殆ん營口の死活問題迄なつたのであるが、時の東三省督軍張作霖氏は之れに干渉し、西義順は此監督の下に、營業は續けらるる事となり、夫以後過爐銀の賣買は全く禁止され、若し此禁を侵すものあらば銃殺の刑に處すとの布令を嚴達したこの事を當時在營支那人より聞き及んで居た。此事あつて以來、過爐銀の聲價も漸く衰へ、其勢力昔時を偲ぶ面影もない様であるが、今は殘骸にも等しい營口が、尙餘命を存して居るの

は、天然的に海陸連絡の便を得て居るの、此過爐銀制度が假令勢力は失墜して居る云へ、商人間には猶利用せられて居るが爲めである云はれて居る。

因に營口は濁流滔滔たる遼河に沿ふた細長い町にして、街は日本人街支那人街に分れ日本人約二千支那人五六分も居るだらうか、支那人街には今も尙在りし昔の繁榮がぞろぞろばるる大店舗の櫛比した個所がある。

遼河の河水は赤土色である。冬期なる、人の心膽を寒からしむる矢の如き流水でも、河面全部結氷して終ふ。奥地よりの特産物が此結氷した河を利用して、橈や荷馬車により運搬され初むるも間もない事である。此季節になるに船舶の出入は全然不可能なる。そして此状態は毎年十二月頃より翌年三月頃迄續くのである。

て居る相であるが、まだ其工事の端緒にも就かない。恐らく財政難の爲めだらう。

(四)

商店組織としての支那人商店は一個人經營のものは極く少ないので、大概數人の出資者により組織せられて居り、其内の一人又は二人の擔當者により營業されて居るものが其大半を占めて居る。そして一人の出資者が他數個の商店にも出資者として關係して居るのであるから、商業上に於ても彼等の團結心は非常に強く、且つ相互に連絡もつて居る。之等出資者を稱して東家と謂つて居る。丁度吾民法上の組合に相當して居る。主人の下には一番番頭、二番番頭、大きな店になるに三番番頭あり、尙其下には手代、小僧、雜役夫等ありて可成りな多數の人数を擁して居る。彼等は間がな隙がな店頭にて珠算の練習に算盤をバチバチ云はせて居るから、一見非常に多忙の如く實に景氣のよい事夥しい。支那人は今猶階級の念の著しく濃厚な國民であるが、此顯れは食事の上下に迄行はれて居る。一商店内の各階級により一等食、二等食、或は三等食に迄も階段がつけられ、之が嚴として行はれて居るから時時商店内にて晝食等を馳走になつた事のある私は、此區別を見てなんぞ嫌な感じがした。タマタマ食事時間に行合

せた時には通常日本人及其他支那人にしても客人になるに一等の食事を供せらるる事あるが、此時には所謂御馳走をする云ふのでないから特別の饗應がある譯でない。以上述べた多くの使用人等は凡て同一店舗内に居住して居るのであるが、此他尙遠隔にある顧客の爲めにも大概部屋を用意がしてある。例へ

奥地等にある平常取引先の商人が大連に商用にて出向いて來た場合には、彼等は旅館よりも先づ等の用意されたる部屋にて寢泊りするものである。之は主客双方の爲めに非常に種類の交渉に於て便利である。だから支那旅館は數に於て日本旅館に比し少ない。尤も前述せる所のものは大なる特産商か又は相當店舗を張つて居る御賣商人等の事であるから小賣商人等には勿論こんな設備はないのである。支那人の辭禮の巧な事は到底日本人の企及し能はざる所で、眞に一度會つたばかりで百年の知己の如き感じがするが、商人になるに殊に然りである。だから日用品以外の小賣品物になるに中掛値も云ふからうかつかり先方の云値では買はれない。通常日本人が、彼等の店舗について物を買ふ場合には、先方云値の三分の二か又は半値位の所から初めれば丁度の所で落付く事になる。

大連在住の支那人は大半山東方面より出稼ぎに來て居るものが多いが兩親や妻子は殆ん國元に殘してある。そして彼等は一生懸命に働いた上一年か二年目毎には必ず勸高を持って兩親や妻子の許に歸るのである。支那人には休日云ふものがない代り舊正月には各商店は門戸を閉ぢて十五日位は徹底的に休むのである。従つて彼等は多く此時を選んで國元に歸省するのである。

支那人の生活程度は非常に低い、従つて勞賃の如きも日本人に比するに半額にも足らない尤も此勞賃の安いのは技量や能率の點にもよるだらうが試みに最近日支勞働者の勞賃を比較して見るに平均左の通りとなつて居る。

|   |   | 日 | 人    | 支    | 人    |
|---|---|---|------|------|------|
| 普 | 人 | 夫 | 一日   | 二・〇〇 | 〇・五〇 |
| 土 | 工 | 同 | 二・六〇 | 〇・六五 |      |
| 石 | 工 | 同 | 三・九〇 | 一・四〇 |      |
| 煉 | 瓦 | 工 | 同    | 三・六〇 | 一・三〇 |
| 鍛 | 冶 | 工 | 同    | 三・四〇 | 一・三〇 |
| 建 | 具 | 職 | 同    | 三・五〇 | 一・三〇 |
| 屋 | 根 | 職 | 同    | 三・〇〇 | 一・二〇 |
| 桶 | 職 | 同 | 二・五〇 | 一・一〇 |      |
| 木 | 工 | 同 | 三・七〇 | 一・二〇 |      |

以上は重なるものを例に採つたのであるが、何れの勞役にしても日支人間勞賃には甚だしき懸隔がある。尙吾人が大連に入港した場合には、岸壁にて先づ第一に眞黒くなつて働いて居る異様の風體をした人間の雲集を見るであらう。之れが即ち大連埠頭荷役の原動力となつて居る苦力の一團である。彼等は全然筋肉勞働者であつて滿鐵埠頭に對し相生由太郎氏の經營する福昌公司の供給する所である。彼等の一日の勞賃は其日の働きにより給されるのであつて、最も働いたものにては壹圓貳拾錢位にしかならない相であるが、彼等につては大した收入であらう。なんじならば彼等一日の生活費は僅か貳拾錢位で事足りる相であるからである。

勞働者の賃銀は前に述べた通りであるが、商店事務員等精神的勞務を給するものにも同様日支人格段なる差異があるから近時日本商店等にて支那人に合ふ仕事ならば進んで彼等を使用せんとする傾向がある。(附言) 以上私は支那人を土臺として其輪劃丈を書いて來た。初めは日本人の事迄書いて見ようと思つた。殊に内地人の滿洲觀察なる

ものが、眞の徹底したる觀察なりや否や多少疑を持つて居る私は、之れにも言及したいと思つて居たのであるが、私の大連出立も餘日幾何もなくなつて來たのであるから、一先茲にて擱筆し他日比例して述べたいと思つて居る。従つて表題の如きも殊更に支那人雜觀として置いた。(大正一三、一一、一五)

エム・エル・タマン氏

ここにタマン氏を紹介する、氏は最近佛國文部省名譽參與官に就任した。佛國が議會の協

M. R. THAMIN  
à l'Institut de Coopération Intellectuelle



最近のタマン氏

こゝは別項所報の通りであるが、最近、今後渡米しやうとする人人の參考の一助にもミ次の様な書狀を宮島事務理事を介して寄せた。

『一九二四年七月一日の排日移民法實施に先つ

贊を経て、百萬法を國際聯盟に提供し、聯盟はこれを以つて、パリに國際知識共進協會 (Institut International de Coopération Intellectuelle) を設立するに決したが、タマン氏は主としてこの協會の經營に當るに云ふことである。

氏は一九〇四年から一九二二年まで、ボルドー大學の總長として、その經營の方面にも、學問の方面にも、稀有の才幹を有つた人であるだけに、前記の如き協會の理事者としては最も適材適所と言はねばならぬ。同氏には著

書論文が極めて多い。就中 Education et Positivism は最も名著として知られてゐる。これ等學界に於ける功績に依り、一九二二年 Institut des Sciences Morales et Politiques の會員に推薦せられた。(この項「歐米の學界」) 親愛なる母校校友・學生諸君に

一 校友西村勝太郎氏よりの來信

大正九年經濟科卒業の校友西村勝太郎氏が昨春會計學研究の目的を以て渡米し、目下コロムビア大學に於いて一般商業學研究中である

なく記述仕り今後渡米の志ある諸氏の御參考にまで供し申候。

一、排日移民法と米國國民

現米大統領クーリッジ氏の排日移民法に對する私言として「米國國民は純米國人たるミ歸化米人たるを問はず米國國民の生活標準を支持する爲に、移民制限法は通過した。余は日本人排斥に就いては日本國民の名譽を傷けざる程度に於て他の方法を以て爲すことを希望した。余はこれより生ずる障害を能ふる限り最少限度に止むべく余の最善の努力を爲したが、而も該法は通過し實施期に至つた以上最早事件は過去のものとなつた。故に我等は日本に對する我等の尊敬と友誼を移民法の外に他の方法に於いてこれを日本人に示さなければならぬ」ミ紐育タイムスは紙上に發表致し候、更にトマス・ジクソン氏も「移民法案中に排日條項を挿入して友邦國民の感情を害したる米議會の行動に對し、米人の九割九分までは大反對であることは疑ひない。その適例として東京米國大使館に於ける米旗竊取事件に對して米人は一向冷淡で慨してこれを一些事として葬り去つた」ミ述べ、これらを綜合して小生は排日移民法は一部政治家の今秋大統領選舉に對する野望を満さんが爲の策略にて、一般米人の欲するところにあらずと思考仕候。

二、移民法と學生

移民法第四條は非割當移民に關する規定第五項に、移民學生の入國せむと欲する者は十五歳以上にして入國の目的は「全然勉學の爲め」なるべく、且つ豫め入校せむとす

る學校を指定して勞働大臣の許可を得べし  
と規定し、且つ學校に對しては總て移民學  
生の在學する學校はその學生が入退學の都  
度これを勞働大臣に報告を要し萬一その報  
告を怠りたる學校は再び移民學生を在學せ  
しむること能はず懲罰事項まで附規致し  
居り候。更に去る八月三十日勞働省は更に  
移民法に準じて學生取締規則をも發布し、  
該規則の一部に「學生が籍を學校に置く間  
はその種類を問はず營利事業に關係するこ  
とを許さず」と明規し、學生を標榜して實  
は勞働に従事するが如き弊害を防ぎ居り候  
又如何なる移民學生にても事實登録せず、  
其の他眞正なる學生としての資格を維持せ  
ず、若しくは退學を命ぜられたる者、營利  
を目的とする事業に關係したる者は學生と  
しての資格消滅せるものと看做し、移民法  
に依り送還せらるることと相成居候。

以上の諸規定に對し、現に移民問題の一權  
威たる在米の河上清氏は亞細亞誌上に於い  
て「米國が世界に誇るアドリナンの發明者  
高峰穰吉博士、ロックフェア研究所の野口  
英世博士なども、新移民法が夙に存在して  
居つたならば充分に研究すること許され  
ず従つてその世界的發明も米國に於いて成  
就せられなかつたであらう」と論じ、又紐育  
市日本人會も右法規の緩和策を講じ居り候  
も目下の處得るところ無之と存ぜられ候へ  
ども、かくの如く表面學生と稱して實は勞  
働を目的とする移民が多數入國せる事實に  
基き、この弊を一掃せんが爲めに反つて角  
を矯めて牛を殺すの結果に陥り、米國が自  
ら學問上の門戸閉鎖を行ふに至れりとの批

難一部にては盛にして小生も米國自身の爲  
明かなる不利と愚考仕候。

三、邦人學生に指定學校

(本項は前號本誌を以て詳報したるところなる  
を以て省略する一編輯者)

四、排日移民法に非學生在留同胞の覺悟  
移民法の策源地たる西部地方に於ける在留  
日本人の目下の境遇に關しては、小生詳か  
に致さず候も將來について愚考仕ることは  
は、全然米國を思ひ切りに歸國するか或ひ  
は一層の決心と努力とを以て永住の覺悟を  
定むるかとの二途のみと存申候。事實につ  
いて在留同胞の決意を伺ひ候ても、故國に於  
いても容易に發展の機會無之き様子の爲め  
に、多く寧ろ永住の覺悟を定め、經濟的發  
展の基礎を作るやう努力致し居るやに見受  
け申候。従つて從來浮腰なりしものの中に  
最も近は、大いに將來の發展を期し奮闘を  
開始するの緊張せる機運漲り居り候、小生  
目下コムビア大學商科一年に在學罷在候  
もその惜しげもなく財を投じたる諸設備の  
完全なるに驚き居り候、幸に諸兄の御健勝  
と御幸福遙に祈上候。(一九二四、一一、一)

高等試験合格者

大正十三年度施行の高等試験司法科及び大正  
十二年法律第五十二號に依る試験に、本學出  
身者中左記諸氏が無事登第した。

- 瀧川 堯 中村源次郎 永石光雄  
平田奈良太郎 酒見新一(在學中)  
(以上高等試験司法科合格)  
若山資雄 瀧川 堯 中村忠夫  
森田良三 清藤矢八郎 都馬小一

木村順一 松川孟一 菅田實三  
以上法律第五十二號に依る試験合格者)

(學内報道加)

計報

大正十三年十二月一日

本學協議員菅沼豐次郎氏令息

菅沼定一氏

大正十三年十二月六日

本學贊助員深尾隆太郎氏令妹

川添壽恵子女史

右計音に接し謹んで弔意を表す

新刊紹介

『關西文學』創刊號

毎月一回發行◎大阪府三島郡吹田  
町濱之堂一〇五〇會我方 關西文學社  
本學專門部文學科に學ぶ學生諸君の有志によつて  
本年一月一日附で發行された文藝雜誌である。學  
生諸君の作として創作には犀(室町銀之助)謙吉の  
戀(律清一)郎歡喜の頂點(林凡一)母を讀す(尾能  
淑郎)踊る男(程島武夫)童貞(渡幸夫)詩には生活  
(堀見恒夫)屠殺者の娘(藤本浩二)隨筆(鹽屋紅村)  
等の諸作の外服部嘉香氏の短歌をも載せ、次號か  
らは追追かうした著名の氏の寄稿を仰ぐ由である  
體裁も可成り堂堂たるものである編輯も整つて  
はゐるが、慾を云へばさう云ふ外觀に劣らぬくら  
ゐに内容をもう少し充實させて欲しい。本當のこ  
とを云へば若い人達の作品なり技巧なりはさうし  
ても圓熟した大家の夫に及ばないのであるから、  
吾等がかうした雜誌に期待する所は唯商賣氣を離  
れた一本調子な純真さである。これあるが爲めに  
吾等は内容は兎に角さうかうした雜誌に好感を  
持つことも出来るし、かう云ふ仕事をする人に親

しめもする。本誌はこの大事な一點に於いて少し  
欠ける所はあるまいか。將來の發展を祈るが故に  
敢て苦言を呈する。(T・M生)

(第八頁より續く)

ありません。そこで、バレット教授の社會理論  
の紹介は他の機會に譲り、ここでは、親友パ  
ンタレオニ教授の話されたところを記述する  
に止めませう。

『バレット教授の社會學的著述』については、批  
難攻撃が極めて手厳しい。が、この種の攻  
撃は、略ぼ、三つの原因に基つてゐるはしな  
いかとわたしは、獨り推測してゐます。  
その原因の第一は、バレット教授のこの著述  
を全部通讀せず、單にその本の體裁を見た  
だけで、批評してゐるこゝではないでせう  
か。これまで發表されたバレットの著述若し  
くば論文は、飽くまで論理的、若しくは數  
學的で、まるで浮き彫りのやうでありました  
が、この社會學の本だけは極めて膨大で、  
一寸見るに粗漫な書き方のように思はれな  
いこゝもありません。だから、この本は、  
正しい意味の著述ではなくして、單に資料  
の提供にすぎないとか、また、少しも纏り  
がついてゐないとか、或ひは百科全書のや  
うださか言つて批難する聲が聞えるのであ  
る。しかし、これ等の批難は、決して取る  
に足らないと思ひます。

『その第二の原因は、從來バレット教授が經濟  
學において維持して來た地位を妬む輩の犬  
齧的批難ではありますまいか。經濟學にお  
けるバレットの學的生命は前に申した通り不  
朽である。いかに、彼を好まない者であつ

# 謹賀新年

大正十四年一月一日

關西大學校友  
並ニ御關係

各位

關西大學

役員一同

教職員一同

關西甲種商業學校教職員一同

關大第二商業學校教職員一同

關西大學擴張後援會役員一同

學報局員一同

校友會役員一同

校友會大阪支部役員一同

校友會東京支部役員一同

校友會和歌山支部役員一同

校友會神戸支部役員一同

校友會岡山支部役員一同

校友會高知支部役員一同

校友會福岡支部役員一同

千里山學友會委員一同

福島學友會幹事一同

ても、靜的經濟現象において、バレット教授

が振つた解剖のメスの鋭さ、その鋭さを具

體化した「一般平衡の法則」の前には、殘

念ながら兎をぬがざるを得ない。純理經濟

學の畑において、バレットの説を崩すことは

仲仲容易ではありません。そこで、反バレ

ト學者達は機會を待つてゐたのである。バ

レット教授が、經濟學を離れて新らしく社會

學に手をつけ、珍らしくも社會學の文獻を

發表したと傳へきくやいなや、時こそ來た

れど、彼等は攻撃の火の手を上げ、これま

で經濟學上でやりこめられた鬱憤を、犬糞

的に晴らさうとしたのである。この策戦は

賢い。何となれば、今言つた通り、社會

學其のものが未だ混沌たる星霧時代である

から、攻撃しようと思へば、どんな攻撃で

も出来るからである。

『その第三は、バレット教授のこの新著を目し

て未定稿とするものであります。社會學こ

言ふ廣漠たる原野に、新らしく開拓の勳を

入れただけで、未だ充分成功してゐることは

言へぬといふ批評であります。この種の批

評は傾聴すべきことで、私も切に同感であ

ります。はじめ申しました通り、經濟學に

於けるバレット教授は、「仕上げ」を擔當した

熟練工でありました。これに反して、社會

學に於けるバレット教授は、基礎工事に從事

中の一職人であります。』

ここまで來ました時、パンタレオニ教授が親

友バレット教授について、なされた談話は、略

ぼ、終末に近づきました。記述するわたくし

も、大分疲れました。だから、このあたりで、

一先づ本稿をきり上げます。

## 本學創立第三十八周年 記念自由講座開催

内に對して「學の實化講演會を開催し、  
外に對して「自由講座」を開くことは、本  
學の二大特色とするところであるが、今  
回、特に本學創立第三十八周年を記念す  
るため、左記の通り「自由講座」を開催し、  
好學家の來聽を待つことにした。

一、日時 大正十四年一月十七日(土)

午後六時より

一、會場 大阪朝日新聞社樓上

一、講師及演題

自由責任思想の發達 本學講師 宮本英雄氏

改正國籍法に就て 本學講師 佐々 穆氏

題未定 本學講師 田邊信太郎氏

大正十三年十二月廿八日印刷  
大正十四年一月一日發行

## 不許複製

編輯兼發行人 辰巳經世

印刷者 飯田彌之助

印刷所 鐵三有社

發行所 關西大學學報局

大阪府北區上福島北二丁目

大阪府北區上福島北二丁目

大阪府北區上福島北二丁目

大阪府北區上福島北二丁目

大阪府北區上福島北二丁目

大阪府北區上福島北二丁目

大阪府北區上福島北二丁目

大阪府北區上福島北二丁目

大阪府北區上福島北二丁目

大阪府北區上福島北二丁目



# 新春を祝ぎて

妙なる調に花の舞袖翻しつ、

歡びあふる、一月の三越

明けましてお芽出度う存じます。  
一陽來復の春を迎へて、身も心も晴れやかに、三越の  
店内も亦氣分を一新いたしました。吉例の八階會堂に  
於ける舞囃子、長唄、哥澤、箏曲、洋樂なごさまぐの趣  
味の會は、日を次でいよく麗かな平和の世界を展開  
して芽出度き御代の春を祝ぎます何卒御歡びの半日を  
割いて是非御來遊の程偏にお待ち申上げます。

大 阪



## 三越呉服店

元旦より三日まで休業。但し寫眞部は限り平常の通り元旦より無休にて營業  
いたします何卒年頭記念寫眞の御撮影には是非當店へ御光來の程希上げます